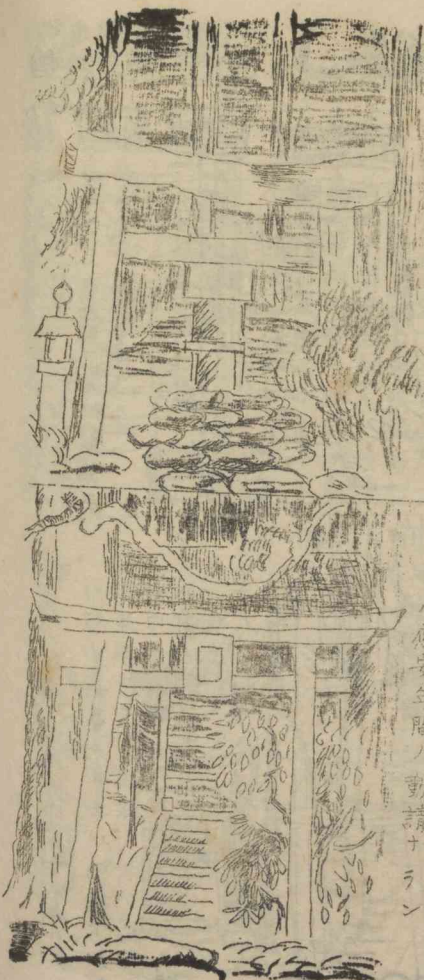


神明神社 鹿ノ入
 天明四年六月ノ勤請
 社殿ノ周圍ハ竹林ナリヲ以テ竹林
 神明神社ト傳フ



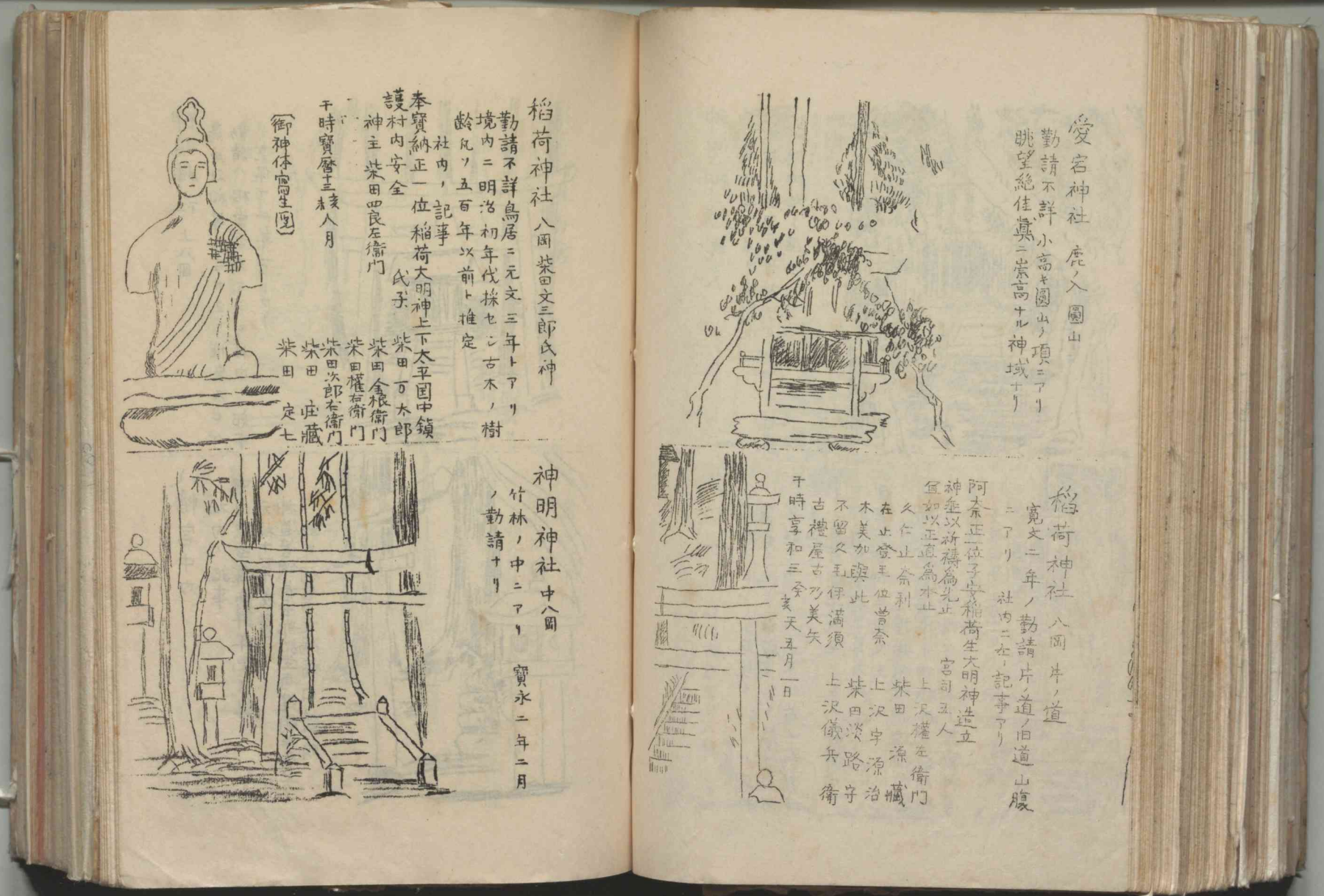
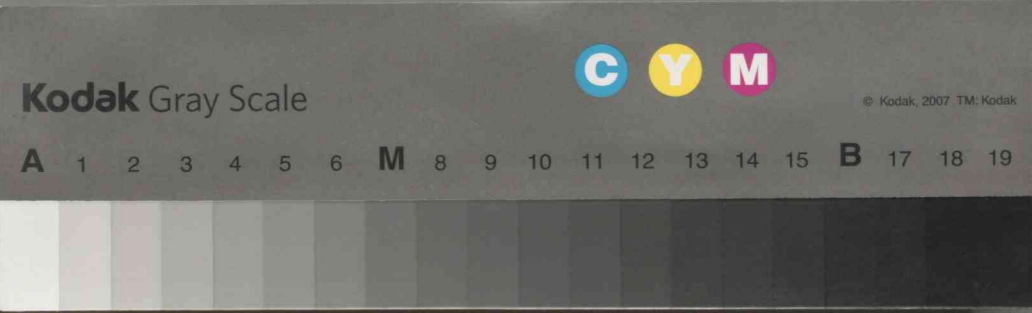
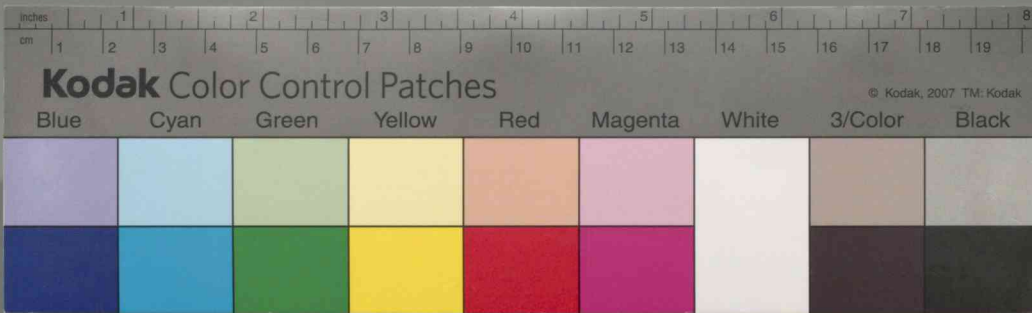
八坂神社 鹿ノ入 石原直安氏神
 鳥居ヲクバリ石段ヲ上レバ老杉
 鬱蒼トシテ社殿古色ヲ帯ブ勤請ナ
 不詳ナレドモ五百以前ノ勤請ナ
 ラン
 石原直安氏宅ニ在リ 記事アリ
 下野國都賀郡上草久村
 星宮大明神 牛頭天王
 守護職 福田修理源方富
 社職之進退 須守神祇道規範年中
 之祭式着風折帽子 淨衣宜謹勤神事
 者神道之狀如件
 安政四年十一月十一日 神祇管領

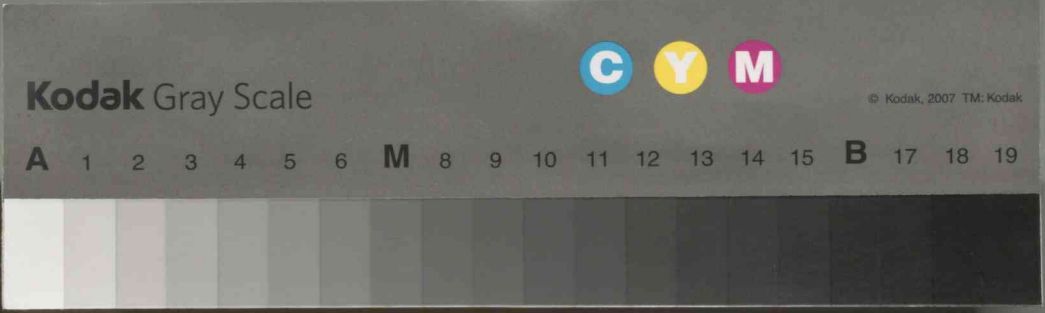


神明神社 仲ノ畑
 貞享二年十月ノ勤請ニシテ氏子一
 同敬神ノ念厚ク神社ノ積立全ラナ
 シ社殿ハヨク修繕セラレ例年ノ祭
 典ハ盛ニ行ハル

稻荷神社 吉鹿ノ入
 社内ノ記事ニヨレバ寛文二年ヨ
 リ古キ記事ナクモ境内ノ立
 木及ビ伐採セル切株ヨリ推定ス
 レバ應安年間ノ勤請ナラン





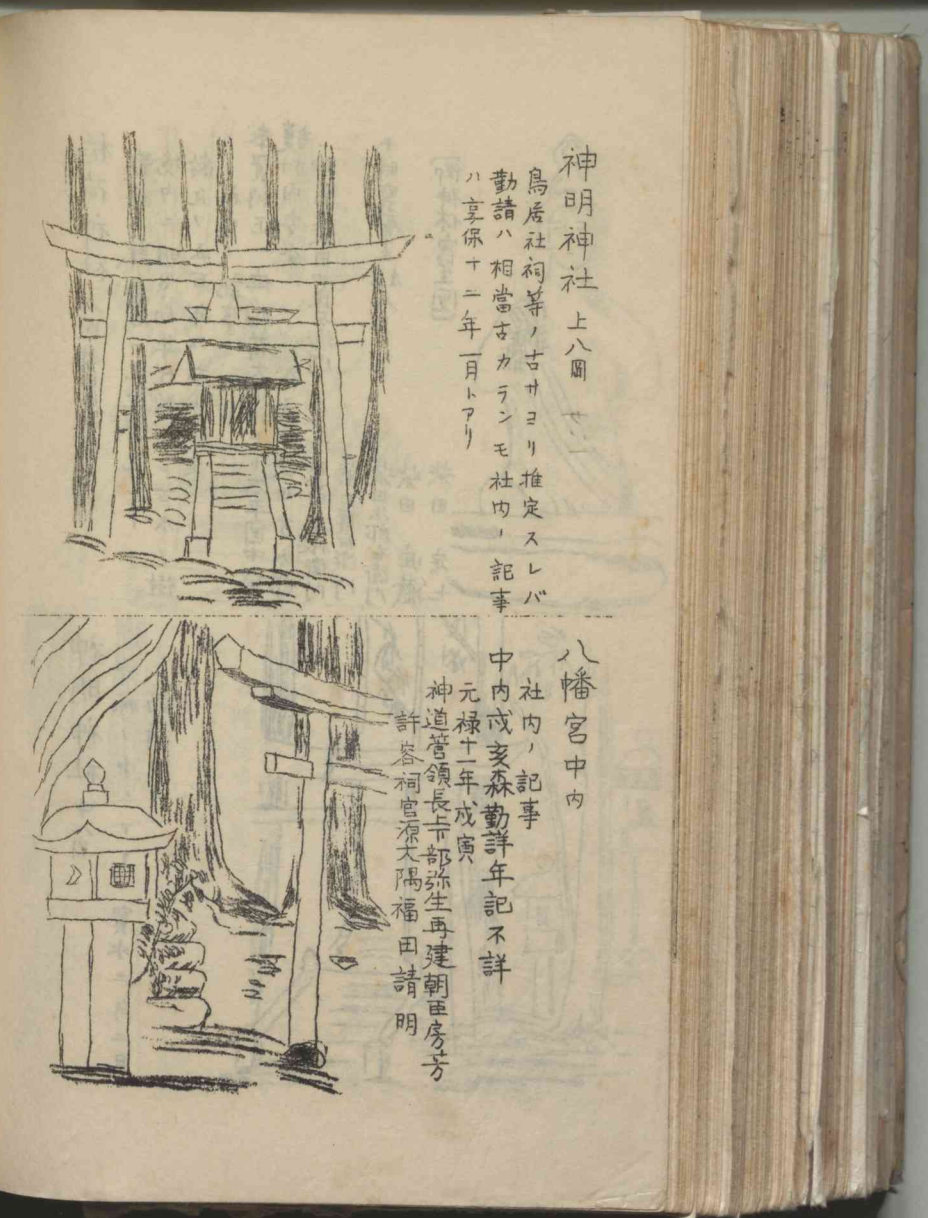


稻荷神社 内倉

勤請不詳
境内ニ伐採ヒル古木ノ切株樹齡ヨ
リ推定スレバ四百年前ノ勤請ナラ

八幡宮 小川

天明六年四月勤請
鹿ノ石原宜安家所藏ノ記録
小川八幡宮神祇管領長上從五位下朝臣
寛政五年五月十日 神主藤原 宗從



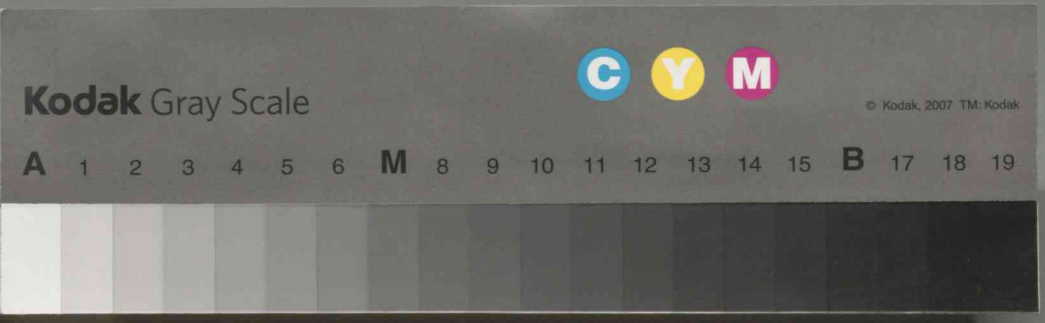
神明神社 上八間

鳥居社祠等ノ古サヨリ推定スレバ
勤請ハ相當古カラシモ社内ノ記事
ハ享保十二年一月トアリ

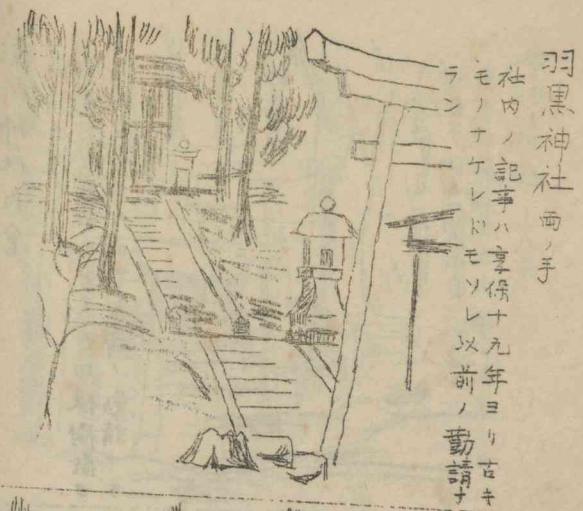
八幡宮 中内

社内ノ記事
中内成亥森勤詳年記不詳
元禄十一年成寅
神道管領長卡部弥生再建朝臣房方
許峯祠官源大隅福田請明

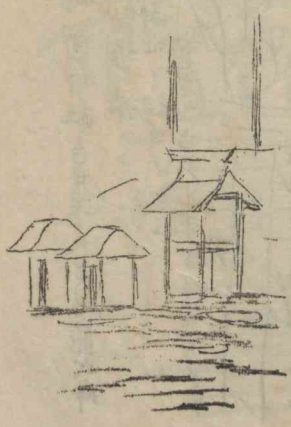




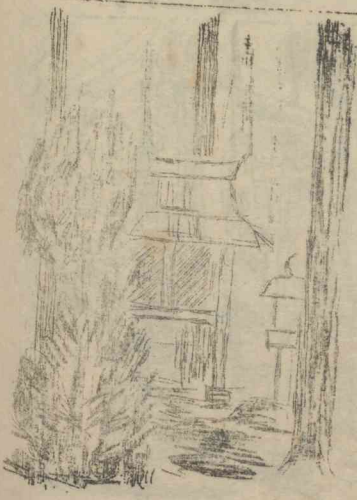
八幡宮 小檜
字ノ西方山麓ノ平地ニアリ
勤請ハ元禄十一年一月



羽黒神社 向ノ手
社内ノ記亭ハ享保十九年ヨリ古キ
モノナケレドモソレ以前ノ勤請ナ
ラン

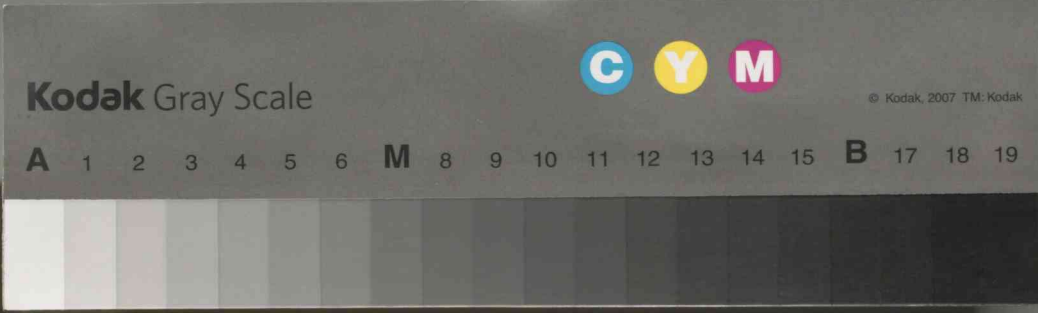


皇宮神社 馬返 青木太一郎氏神
青木氏ノ祖先ハ古ク豪家ナリト
傳フ故ニ此ノ宮ノ勤請モ古カラ
ン社内ニハ現在 虚空藏菩薩ノ坐
像アリ 記亭ニ
奉造 虚空藏菩薩像安置
天明二年九月 青木太良左衛門施主
鰐ノ銘ニ 奉施入氏神御前鰐ノ口
大永五天巳酉 宜長

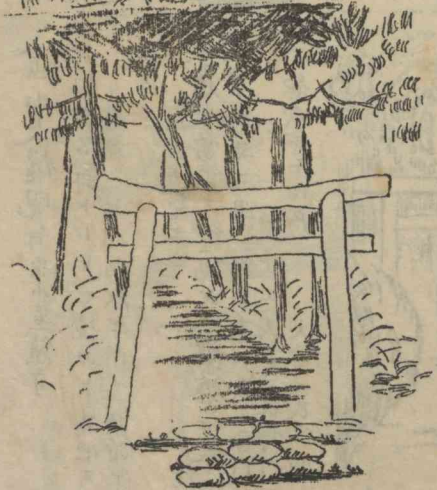


八幡宮 落合
石飲ヲ上ルコト 犬倉山腹ノ一宮
コレハ幡宮ナリ
勤請 元禄四年二月

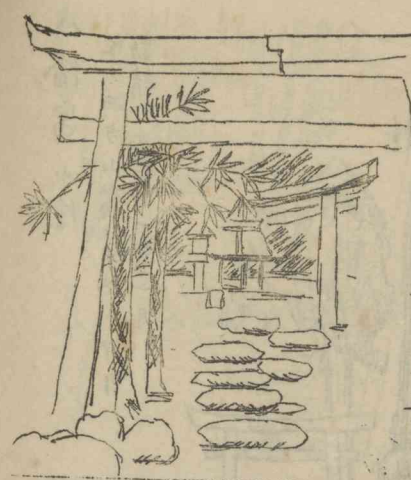




山祇神社 落平
七社山神社ノ一ト傳フ
元禄十六年ノ勤請ナリ



磐虫影山神社 古越路
大正十四年四月十五日
養蚕守護ノ神ト云勤請ス

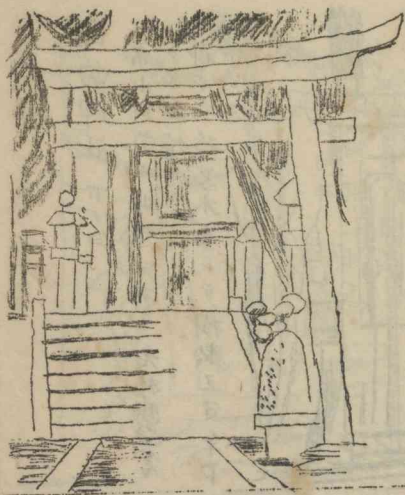
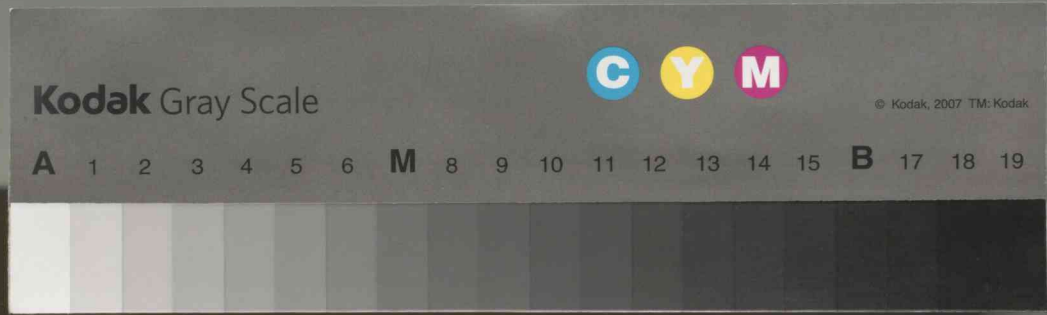
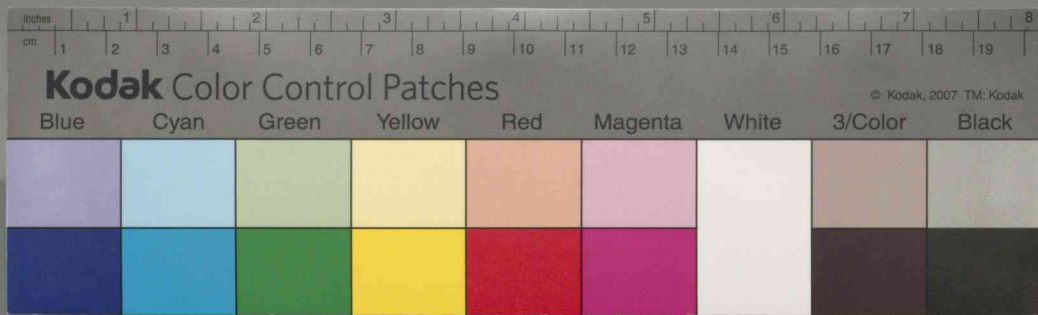


岩裂神社 白井平
鳥居ヨリ石段ヲ上ルコト久シ中腹
ノ神境古木鬱鬱及倉多ク中ニ宮アリ
勤請不詳 鰐ノ銘ニ
皇宮金 貞治三年十月十五日



稻荷神社 白井平 大貫福太郎氏神
勤請不詳
神社ノ鰐ノ銘ニ
寶曆九己天九月吉日トアリ

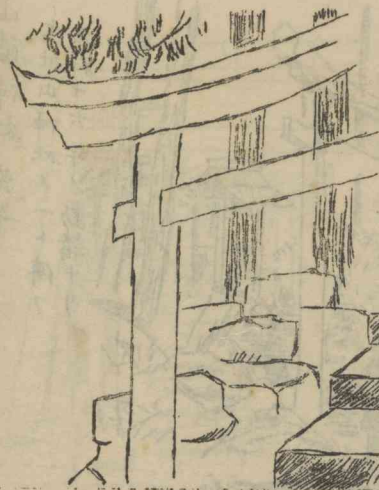




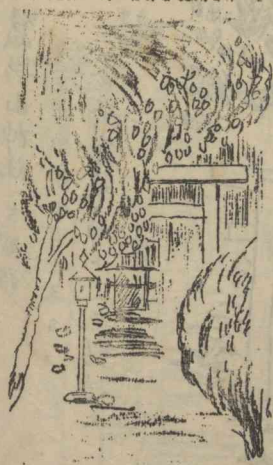
岩裂神社 古越路
 社前ノ鳥居石燈籠整然トシテ社殿
 甚厳ナリ
 社内ノ記事ハ正徳四年トアレドモ
 ソレ以前ノ勤請ナラン



稻荷神社 示圖
 神山一家ノ氏神ノ勤請ハ社内ノ
 記事ニヨレバ元禄十六年トアリ
 最近社祠ノ修繕ヲナシ甚厳ナリ

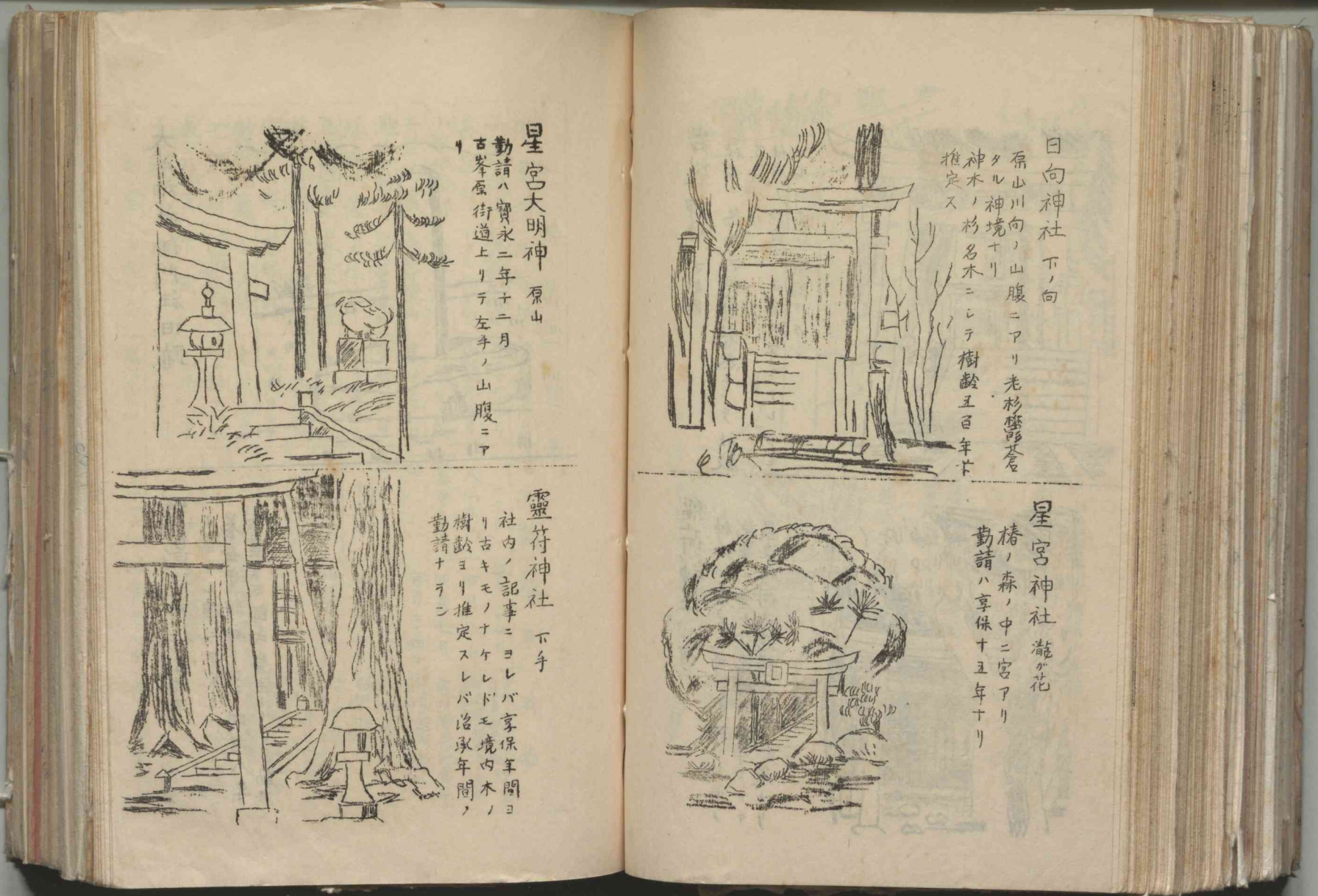
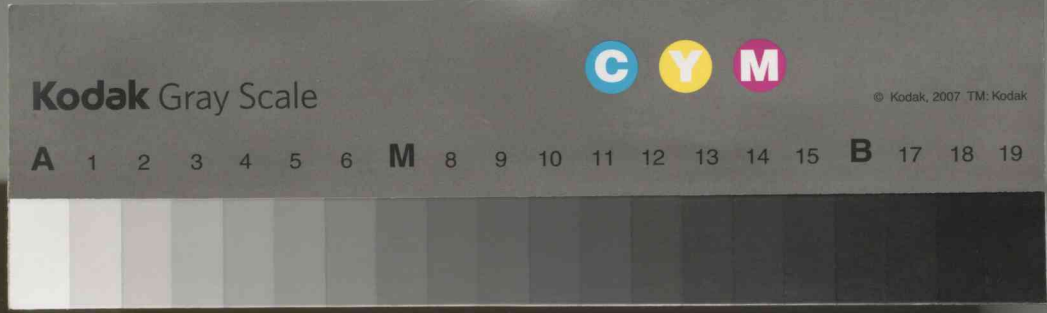
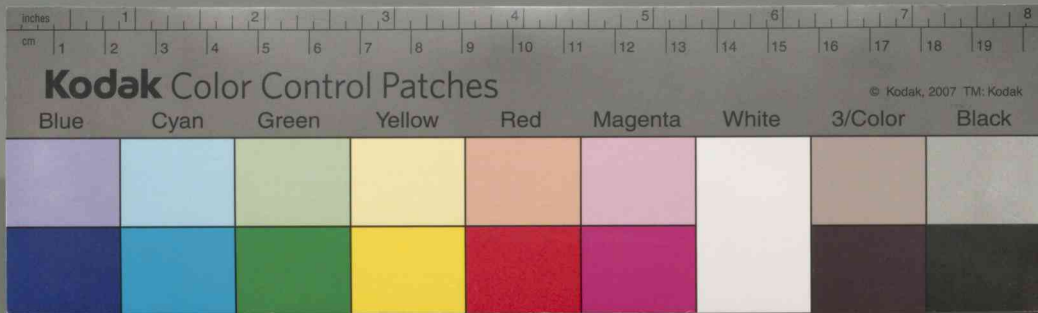


八幡宮 落平
 社内ノ記事ニハ寛文元年トアルモ
 境内ノ古木伐採跡ノ樹齡ヨリ推定
 スレバ治承年間ノ勤請ナラン



金山大権現 河原小屋籠守
 勤請不詳ナレドモ境内木其他ヨ
 リ推定スレバ治承年間ノ勤請ナ
 ラン
 社内ノ記事ニ
 奉建立當前大権現氏子繁榮祈攸
 寶永四年正月 神主高村長左衛門
 大工大貫五良衛門
 大貫四良衛門
 徳成子十四戸





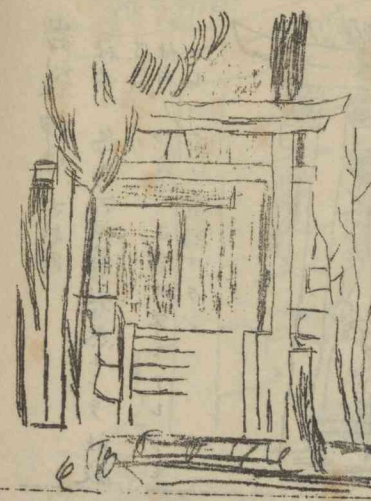
星宮大明神 原山

勤請ハ寶永二年十二月
古峯原街道上リテ左手ノ山腹ニア



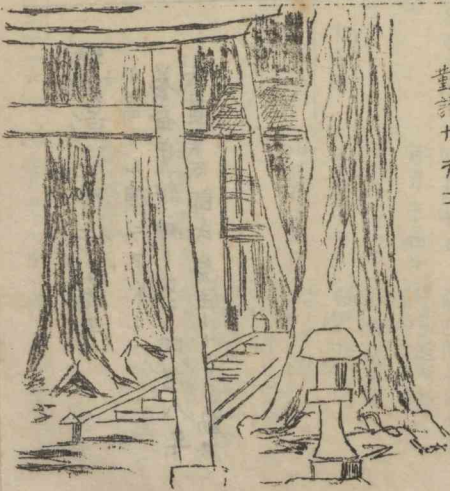
日向神社 下ノ向

原山川向ノ山腹ニアリ老杉鬱鬱蒼蒼
タル神境ナリ
神木ノ杉名木ニシテ樹齡五百年ナ
推定ス



靈符神社 下手

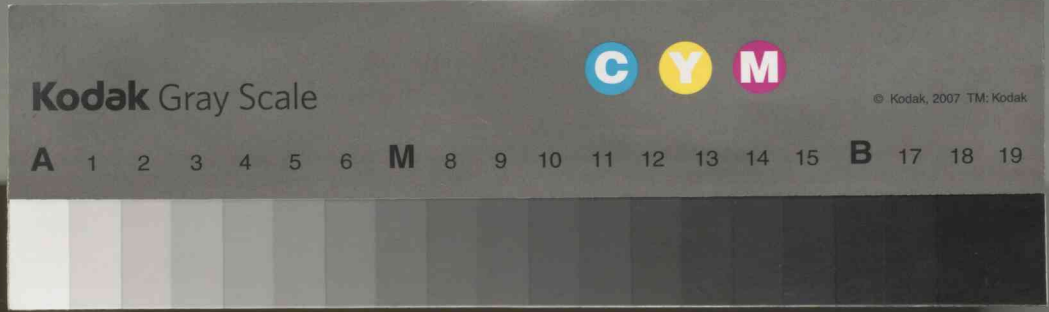
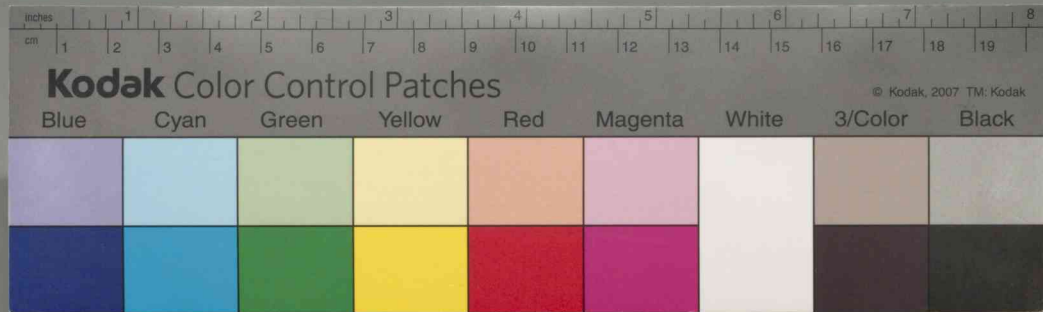
社内ノ詔事ニヨレバ享保年間ヨ
リ古キモノナケレドモ境内木ノ
樹齡ヨリ推定スレバ治承年間ノ
勤請ナラン



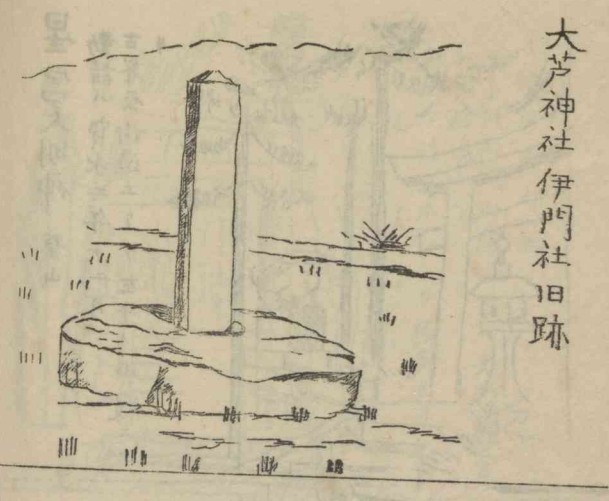
星宮神社 龍ヶ花

椿ノ森ノ中ニ宮アリ
勤請ハ享保十五年ナリ





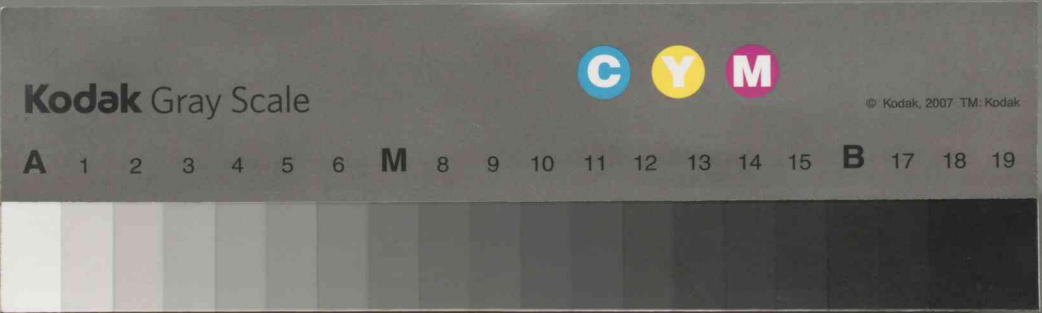
佛堂名	所在地	建立年月	信徒数	縁日	其他
佛堂名	所在地	建立年月	信徒数	縁日	其他
子守地藏塔	鳥居野原	大正十年十月	二十戸	毎月二十四日	毎年十月二十日忌辰 又其部屋賑フ忌辰 釈迦佛會ハ祭 祭多シ
長昌寺	下大久保寺堂	長録年八月	八十五戸	四月八日	祭村御根氏本堂 縁日、燈明、結玉 祭、人々多シ
小曾根薬師	長昌寺本堂内	文明年間	長昌寺主守	四月七日	祭、人々多シ
青木地藏	長昌寺境内	寛延三年六月	全	毎月二十四日	祭、人々多シ
瀧、不動尊	旧長昌寺境内	宝曆八年	全	旧正月二十八日	祭、人々多シ
延命地藏	下大久保田中	大正十年十月	十二戸	毎月二十四日	祭、人々多シ
馬頭觀音臺	上大久保栗坪	不詳	五戸	旧正月十八日	昔ノ佛像ハ今ハ十 ク新キモノナリ 明治初年近カニ 明カキテ、移シテ 和七年四月、 和七年四月、 和七年四月、
慈眼寺跡	去保慈眼寺原	貞應年間	十戸	毎月二十四日	祭、人々多シ
宝篋印塔	慈眼寺跡	天明元年五月		毎月二十四日	祭、人々多シ
麩粉地藏	上大久保	文政九年	二十戸	毎月二十四日	祭、人々多シ
地藏塔	上大久保	享録十六年		春秋彼岸中日	祭、人々多シ
虚空藏堂	下岡	元禄年間	八戸	旧正月十八日	祭、人々多シ
子守觀音堂	塩沢	嘉永年間	十九戸	旧正月十八日	祭、人々多シ
不動堂	古鹿ノ入	萬治元年四月	二十一戸	旧正月二十八日	祭、人々多シ



大芦神社 伊門社 旧跡

磐影山神社 路平
小高キ山頂ニアリ
養蚕守護神トシテ 明治八年
大貫幸太郎氏 祭主トナリテ 勤請...





二寺院

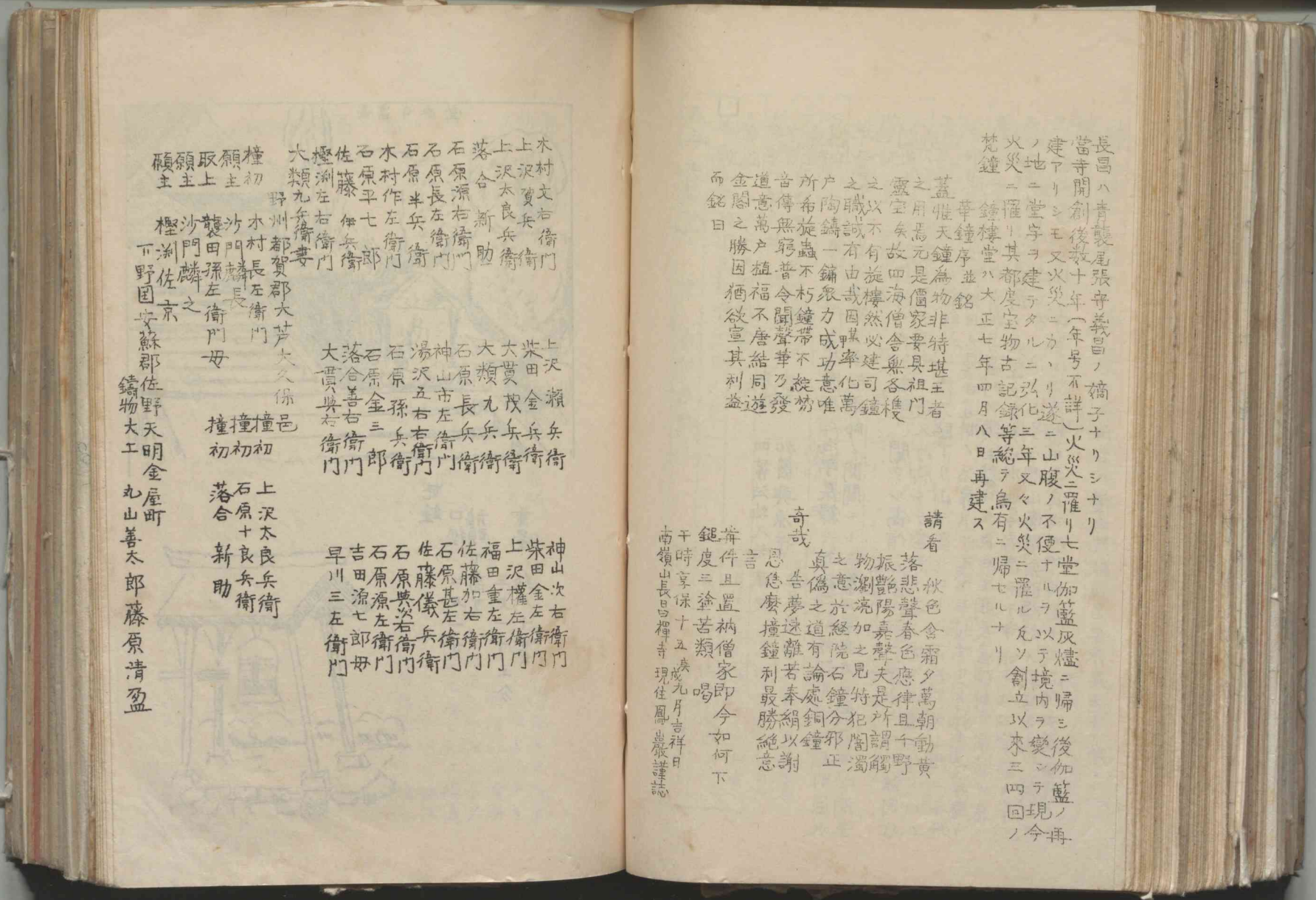
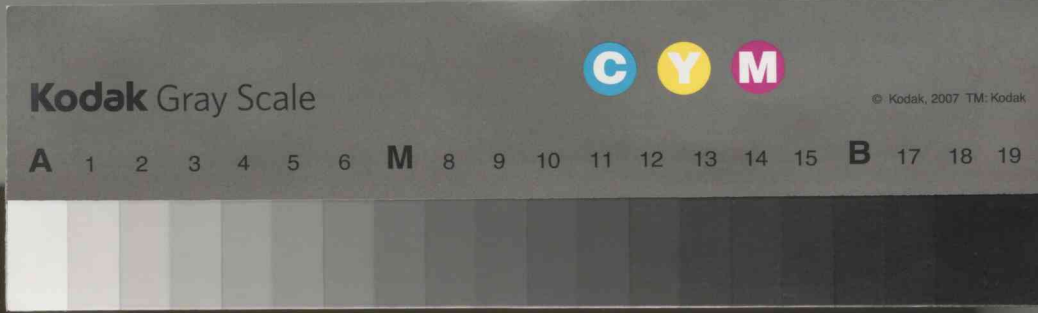
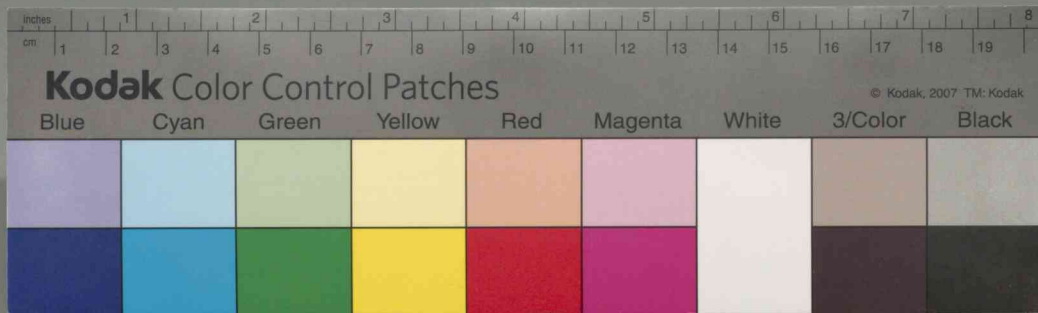
寺名 南嶺山長昌寺
位置 大字下久保臺
宗名 曹洞宗
本尊 聖觀世音菩薩
由緒 八人皇第百二代後花園天之御宇長祿二年(820年)八月二日越前國永
創立 八人皇第百二代後花園天之御宇長祿二年(820年)八月二日越前國永
早寺 第十一代深孫南淵宗睦禪師ノ開闢ニシテ襲田五良右工門長昌之開基

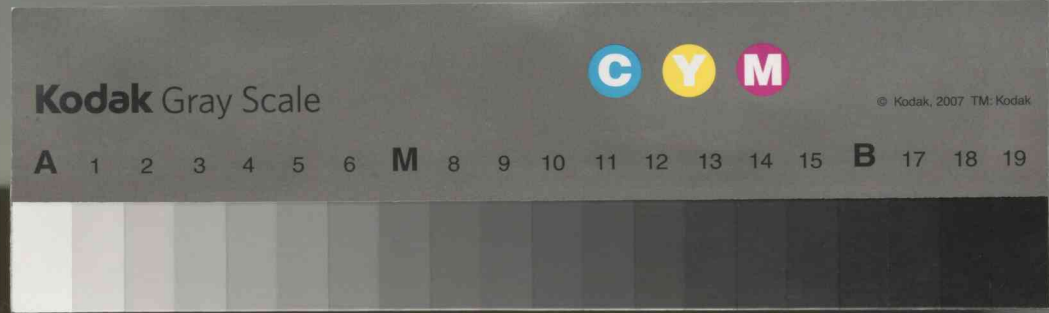
山南嶺山長昌寺ハ昔ニ有徳ノ聞アル高僧ニシテ身ヲ雲水ニ任セ諸國行
脚ノ功加興源寺ヲ開創シ於テ感アリ山ヲ登ルコト八丁ニシテ山腹ニ平地
色ノ瑞雲現ハル禪師此ニ於テ感アリ山ヲ登ルコト八丁ニシテ山腹ニ平地
アリ眺望絶佳ノ師曰ク是吾道林ノ法席トスベキ地ナリト此處ニ草庵ヲ
結ビ安居スルコト教月當村ノ領主襲田五良右工門長昌禪師ノ高徳ヲ慕ヘ
殊ニ帰依シテ信仰ノ念厚ク自ラ山林ヲ寄進シテ禪師ノ頭字ト山ノ嶺ヲ取
テ七堂伽藍ヲ建立ス依テ山号ハ開基襲田五良右工門長昌ナルヲ以テ長昌寺トナ
セリ

因ニ襲田五良右工門長昌公ノ法名ハ禮山院殿長昌安永居士ナリ

佛堂名	所在地	建立年月	信徒数	縁日	其他
佛雲寺跡	鹿ノ	不詳			佛雲寺跡ハ昔ニ有 大貫定之武ノ御宇ノ 事ニヨリ出現セリ
子育地藏尊	勝雲寺跡	明曆三年	十二戸	毎月二十四日	
六面地藏塔	總塚墓地	天正九年			
藥師堂	中八岡	天明六年十月	十三戸	旧四月七八日	佛像ハ云々
延命地藏	上八岡	宝曆十四年	十戸	毎月二十四日	日光安山岩ナリ
子安觀音堂	小檜	天和四年二月	七戸	旧正月十八日	境内古キニ地ヲ分メ 縁日ハ年籍人多シ
不動明王	小檜岩屋	元禄六年一月	八戸	旧正月二十日	縁日ハ年籍人多シ
藥師堂	河原小屋	不詳		旧四月八日	今人參詣ルニ少シ
地藏尊	河原小屋	不詳		毎月二十四日	大貫禪太郎有縁アリ
百合觀音	河原小屋	享保十年育	錯八十四戸	旧正月十八日	縁日ハ年籍人多シ
大龍不動堂	河原小屋大龍	不詳		旧正月二十八日	五六百年前建立ラン 縁日ハ年籍人多シ
普現院跡	半繩	不詳		旧正月二十八日	明治六年近学舎ナリ 諸賢多ク参拜者
金剛山	下ノ向	不詳		四月十六七日	佛ノ入地蔵ト同一ノ 所ニシテアリ
地藏尊	松手	天正九年		毎月二十四日	現在ハ列國手説ニ アリ
長安寺跡	下ノ向	應仁年間			



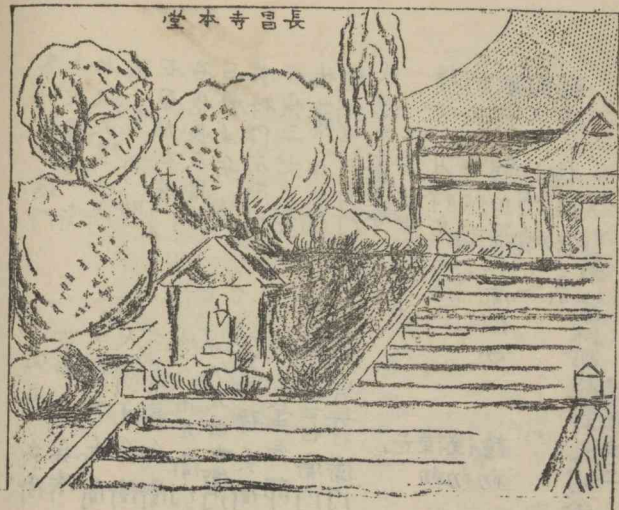




檀家
 明治維新前マデハ住職ニ由リテ寺門ノ興隆ヲハカリシ僧住シタルメカ檀徒モ多ク明治以前檀家分布ニ示レタル如ク百五十戸以上モアリタルニ維新ニ際シ癡佛迎神トナリ加フルニ當テ七世ハ明治初年全不隨ノ病氣ニカハリ明治十五年死シ漸次衰頹ニ趣キ離植スルモノ多クハ寺ヲ離レタリニハ世晋山マデナリ死シ無住職ニシテ加藤荒庵シテ職ナリケレバ殆ンド離植シ當時ハ僅ニ三十戸ニ過ギズ其後歸植シテ現在ニ至レリ

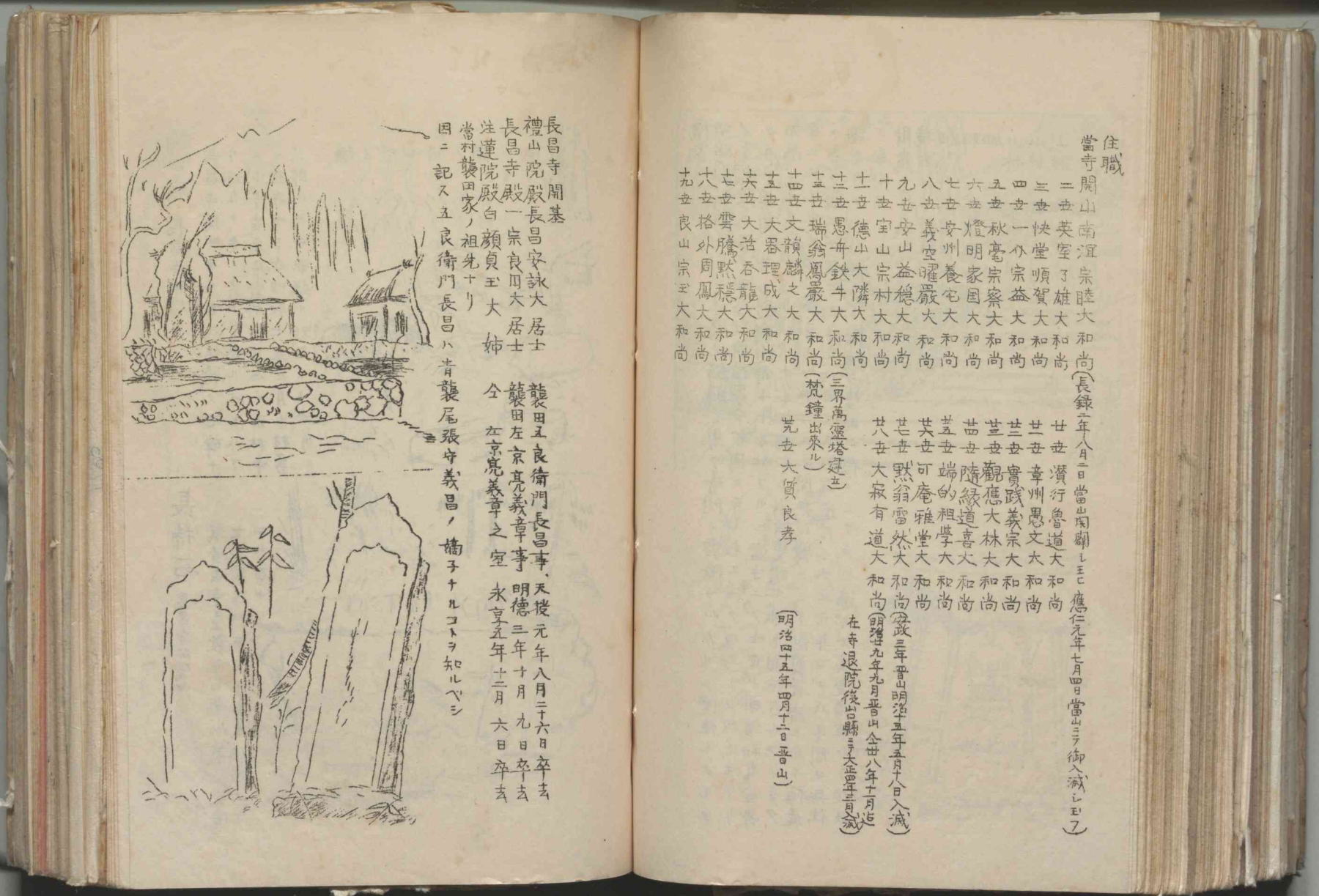
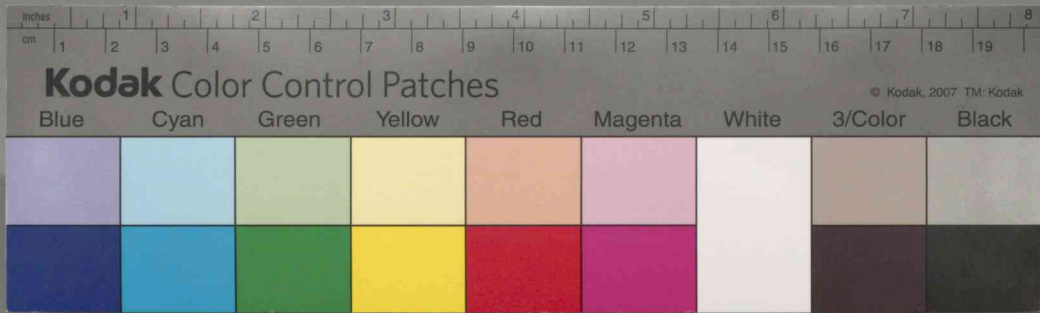
境內
 三百九坪
 貳及五畝拾八歩
 貳及五畝拾六歩
 九畝拾五歩
 參畝拾六歩
 貳畝八歩
 六町元及三畝拾八歩

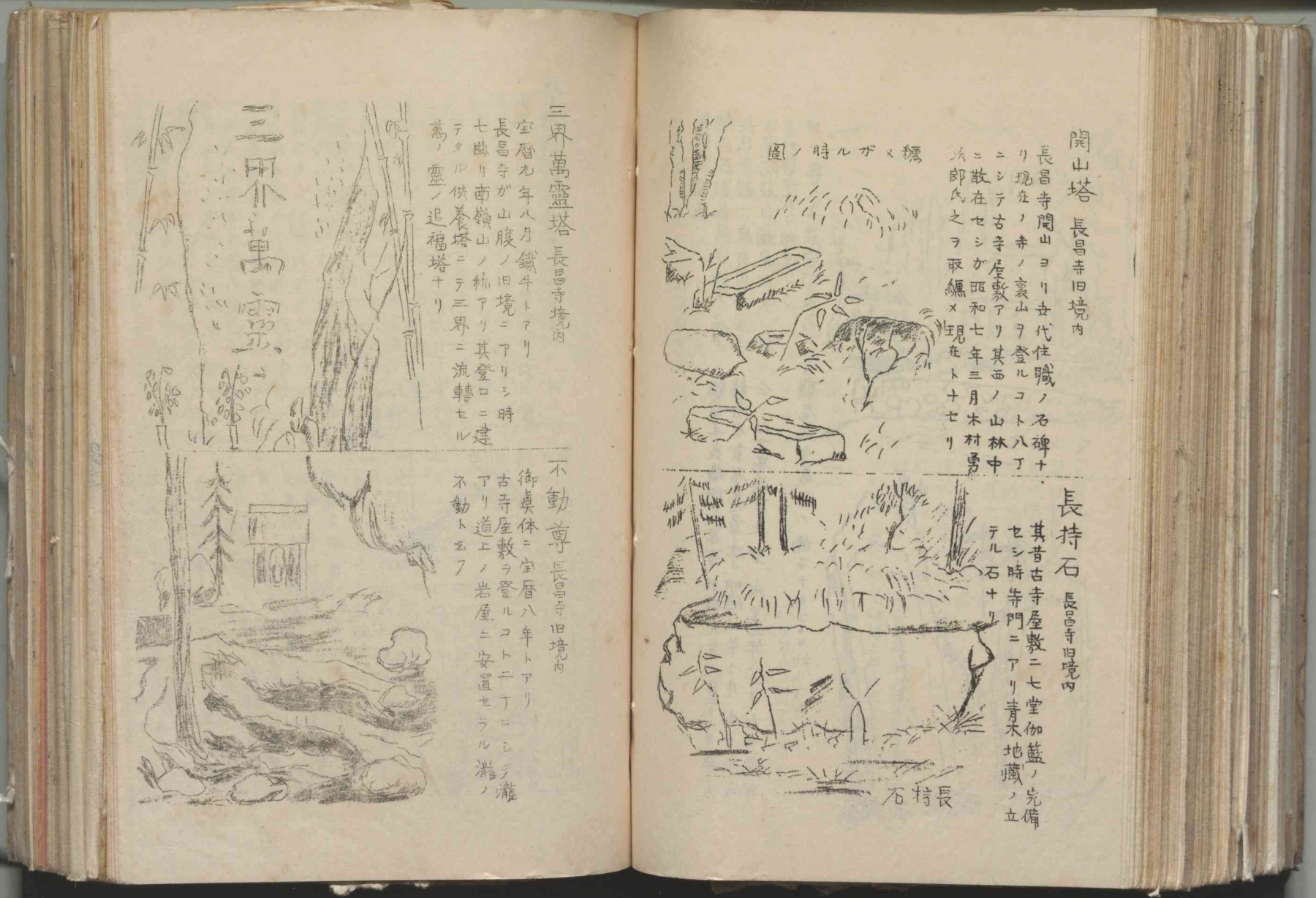
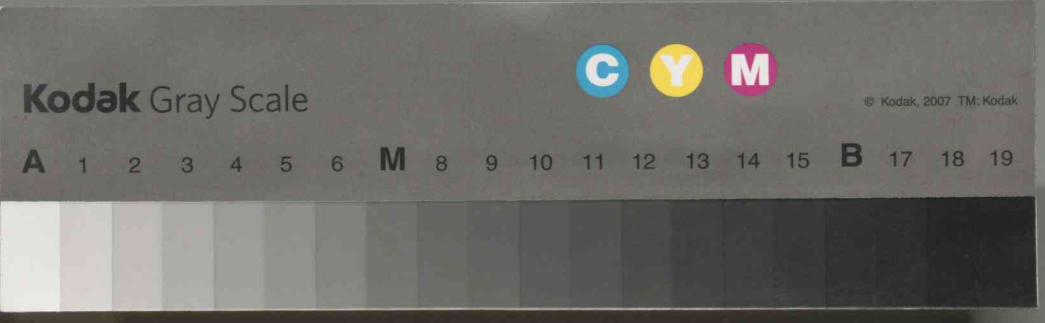
山林
 山林
 山林



梵鐘
 口徑 二尺一寸
 龍頭下高 三尺一寸五分
 重量 約八十貫







三界萬靈塔

宝曆九年八月鐵牛トアリ
長昌寺が山腹ノ旧境ニアリシ時
七曲リ南嶺山ノ柿アリ其登口ニ建
テタル供養塔ニテ三界ニ流轉セル
萬ノ靈ノ退福塔ナリ

不動尊

御真体ニ宝曆八年トアリ
古寺屋敷ラ登ルコトニ丁ニシテ瀧
アリ道エノ岩屋ニ安置セラル瀧ノ
不動ト云フ

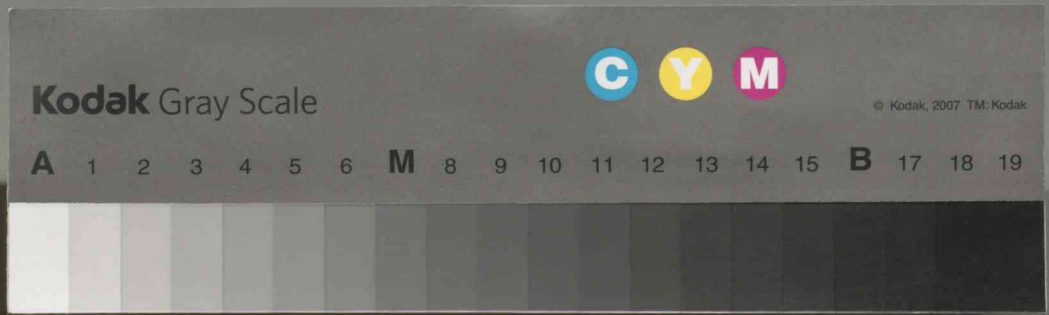
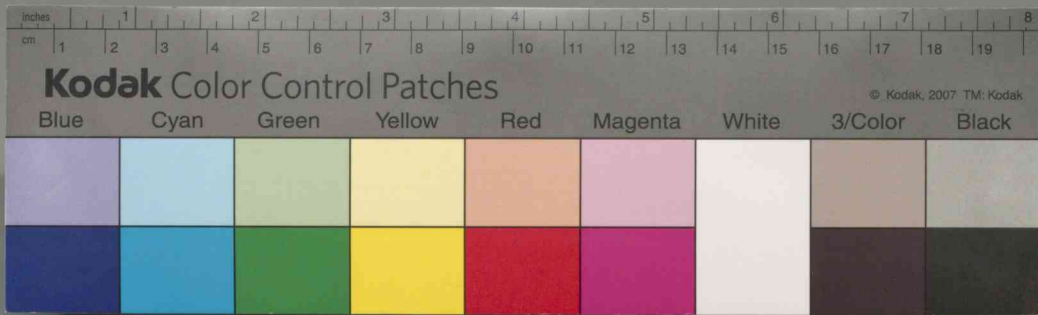
関山塔

長昌寺関山ヨリ廿代住職ノ石碑ナ
リ現在ノ寺ノ裏山ヲ登ルコト八丁
ニシテ古寺屋敷アリ其西ノ山林中
ニ散在セシカ昭和七年三月木村勇
次郎氏之ヲ取纏メ現在トナセリ

長持石

其昔古寺屋敷ニ七堂伽藍ノ完備
セシ時寺門ニアリ青木地蔵ノ立
テル石ナリ





青木地蔵 長昌寺境内ニテ

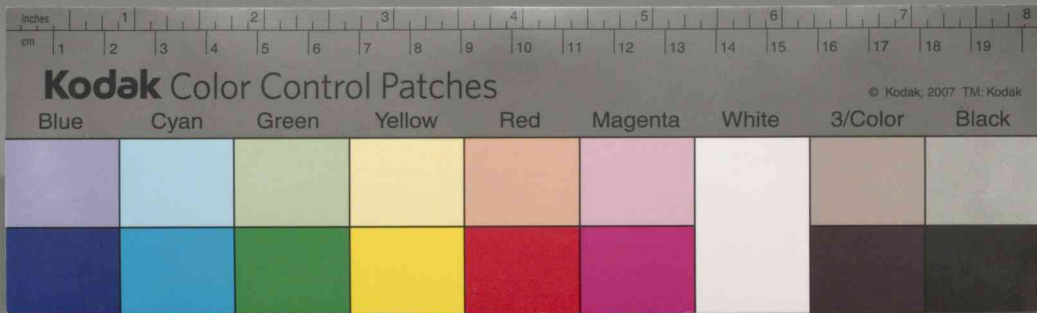
傳説 昔當村馬返ニ青木太良左衛門ト云フ資産家アリ江戸見物ニ行キシ時江戸大火ニ出逢ヒ西國橋ニ差シクカリシ際火ハ忽チニシラ橋ニモイウツリ多敷避難者押シ結リ危險目前ニセマレリ其時一老婆アリ背ニ重キ風呂敷包ヲ負ヒ青木氏ニ見込ナシ此ノ包ヲ何卒リ頼ムト漸クニシテ難ヲ避ケケリ後包ヲ役所ニ届ケ出テ之ヲ調べシニ全部黄金ナリキト云フ然ルニ持主ノ老婆ハ消息ナク遂ニ青木氏ニ下分渡サレ歸國シテヨリ其老婆ノ供養塔トシテ長昌寺ニ一大地蔵尊ヲ建立シテ老婆永代ノ追福ヲ祈リタリ

小僧根藥師 長昌寺本堂内
由來 今ラ去ル五百年前足利氏ノ將軍タリシ時小僧根大學頭大芦郷大久保ニ城ヲ築キ諸邑ヲ領セシ時自己ノ胸懸本尊タル藥師如來ヲ天ノ下泰平萬民豐樂領内安全ヲ祈願スル爲メ領内ニ安置シ慈眼寺ヲシテ管理セシモ今ラ去ル四百七十年前城東南嶺山ニ於テ禪家ノ名僧南道宗睦禪師長昌ヲ創シ南道ノ法ヲ傳宣了准師應仁二年(紀三三三年)長昌寺ニ立テ庵ヲ設テ至リ益々歸依シ文明年中小僧根氏南嶺山ノ麓ニ一宇ヲ建テ御尊体ヲ安置シ了雄師ヲ請シ點眼入佛供養ヲ當ニシト云フ天正元年(紀三三三年)足利氏滅ルヤ四方ニ戰乱起リ將軍家ノ諸侯ヲ統スルオキヲ以テ小僧根氏自ラ官位及諸邑ヲ奉還シテ久我村ニ移リ堂

昔ハ長昌寺旧境内ノ長持石ノ上ニアリ現在ノ地ニ移轉シ除故人ニテ勤カサントセシニ少シモ勤カズ青木氏ノ子孫某ガ一人ニテ昔長昌寺ニ難ナクハテ、坂ヲ下リテ持合ノ地ニ安置セリト云フ
毎月二十四日ハ縁日ニシテ遠近ヨリノ參詣ノ人多ク此ノ地蔵ヲ信スレバ萬病平癒ハ勿論財物ニ不自由ナシト傳ヘラル
尊像ノ裏ニ
寛延三庚辰六月廿日 施主草久馬返村
大乗妙興寺御供養塔 青木太良左衛門
現住十二世 鉄牛代

辛ラ建立ニ本尊ヲ久我村次ノ辺ハ安置スルト爲トモ人ヲレテ再三大久保ニ移シテ靈夢ヲ覺サシムルヲ以テ文録二年(紀二二五年)四月八日再ビ大火ニ罹リ僅ニ御尊体トシテ三出スノミ嘉永三年中堂宇ヲ再建シタルニ王政維新際大政官ヨリ佛閣ヲ廢シ本尊ハ何レニカ去リ給ヒ尋ラハ長昌寺ニ残り後御尊体復歸シ今日ニ至ルモ參詣者絶エズ



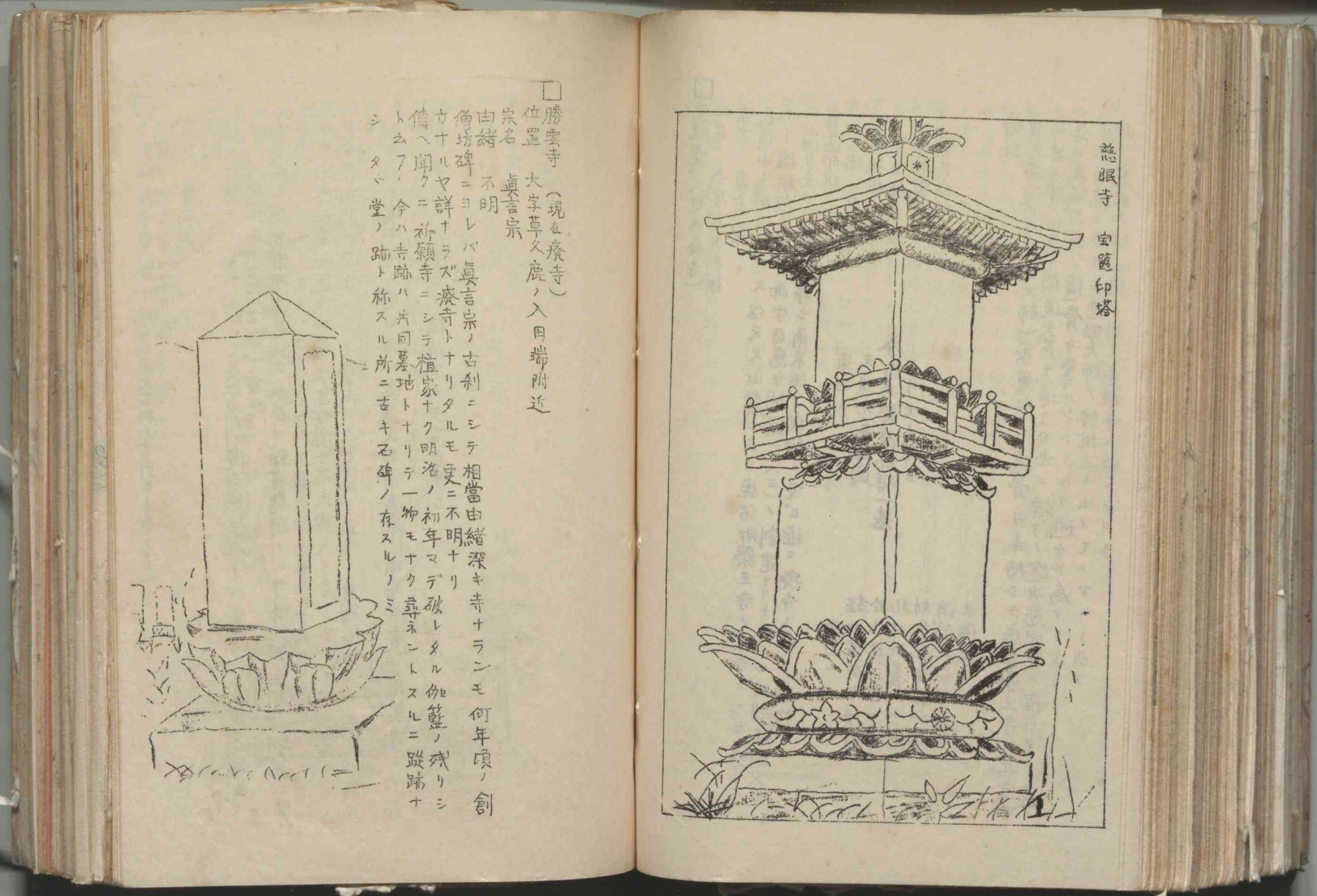
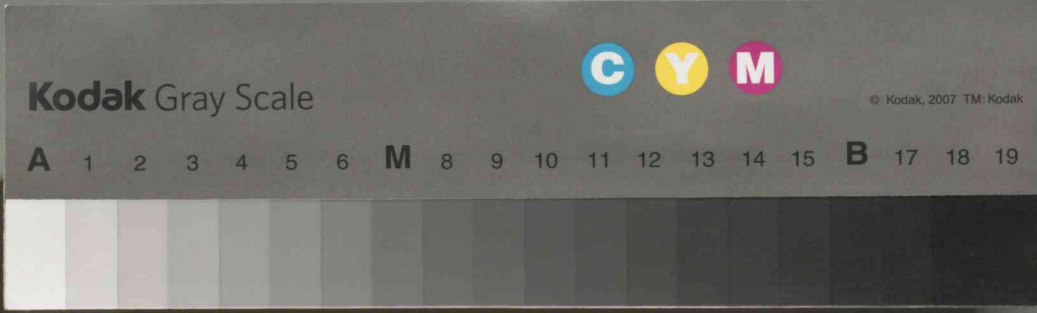
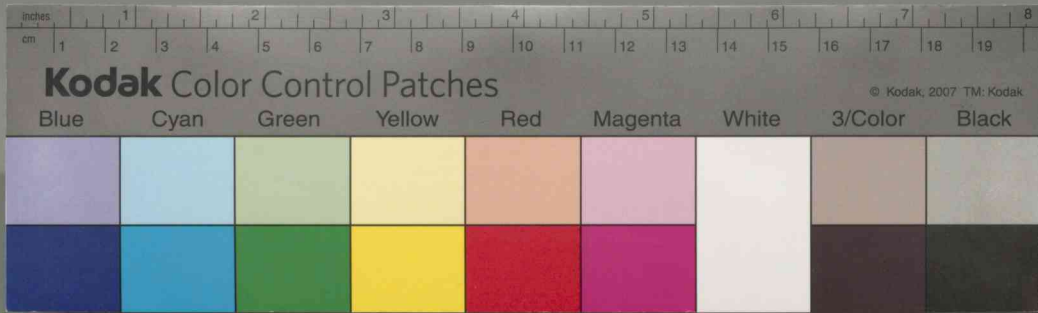


□ 慈眼寺 (現在癡寺)
 位置 大字上大久保
 宗名 真言宗
 長嶺山ト跡ス上大久保天久山麓ニ在リ鹿沼町樂王寺ノ末寺ニシテ真言宗
 ナリ後堀河天皇ノ御宇貞徳年間(紀一八三)ノ創建ナリト傳ハル天明年間火災
 ニ罹リ全ク灰燼ニ帰シ爾來漸ク衰頽ニ及ビ遂ニ癡寺ト變シ遺物少シ
 寶篋印塔
 塔ノ北面ニ
 願以此功德
 普及於一切
 我等與衆生
 皆共成佛道
 奉造立寶篋印塔一基
 東面ニ
 天明元年丑歲
 五月大吉祥日
 南面ニ
 經女若有情能
 於此塔一香一華
 札拜供養八十億
 劫生死重罪一時
 消滅生口口殃死
 生佛家文

傳説
 昔天海僧正(慈眼大師)家康公ノ遺骨ヲ奉持シテ鹿沼樂王寺ニ止宿四
 日其ノ間私カニ問道大芦ヲ通リ日光ニ潛行ノ途次慈眼寺ニ宿ツタト云フ
 是レ久能山徒ノ遺骨ヲ奪ハントスルヲ避ケル爲ナリト
 小來川境ヶ原ニモ慈眼大師ノ腰掛石ト云フモノアリト云フ
 此ノ慈眼大師止宿ニ因リ慈眼寺ト改メタリト

白山妙理大權現 長昌寺境内
 永平高祖道元禪師支那ニ留學セシ
 時大任ヲ果シテ帰朝明朝ニ迫リ一
 切藏經ノ書字ニ忙シク徹宵書寫ラ
 續ケシニ何レヨリカ一人ノ白髮白
 衣ノ老人未リセヨ手傳ヘ一夜ニシ
 テ終レリ爲ニ翌日無事ニ帰朝セリ
 後夢ニ白衣ノ老人現ハレ吾ハ白山
 妙理大權現ナリ禪師大任内成ノタ
 メニ常ニ守護神トナルト告ゲタリ
 後禪師普洞宗開祖トナルト告ゲタリ
 建ツルニ及ビ境内ニ白山妙理大權
 ヲ勤請スソレヨリ普洞宗ノ寺院
 境内ニハ必ズ白山權現ヲ勤請スル
 コトナレリ
 一般ニハ齒ノ痛ムモノノ祈願スル
 モ多シ
 此ノ白山權現モ勤請不詳ナレドモ
 長昌寺創立ト同時ナラン

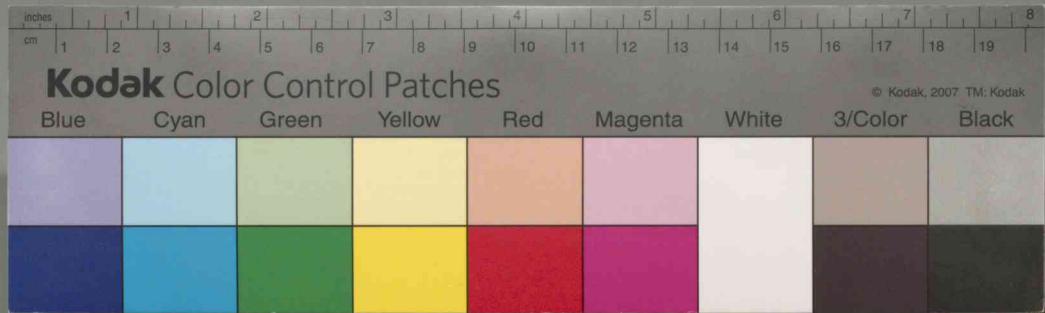




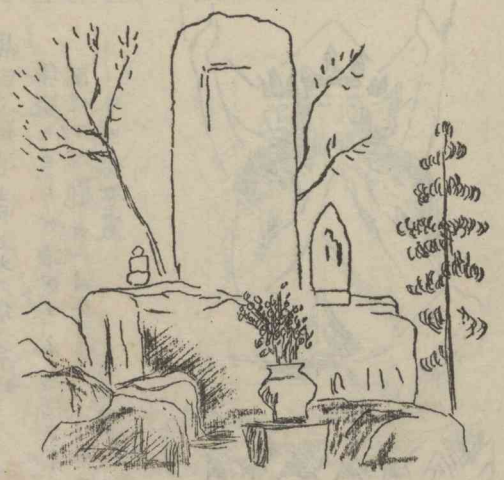
□ 勝雲寺 (現在廢寺)
 位置 大字草久鹿ノ入 門端附近
 宗名 眞言宗
 由緒 不明
 僧坊碑ニヨレバ眞言宗ノ古刹ニシテ相當由緒深キ寺ナランモ何年頃ノ創
 カナリヤ詳ナラズ廢寺トナリタルモ更ニ不明ナリ
 傳ヘ聞クニ新願寺ニシテ植家ノ初年マデ破レタル伽藍ノ残リシ
 トムフ、今ハ寺跡ハ共同墓地トナリテ一物モナク尋ネントスルニ跡跡ナ
 シタル堂ノ跡ト称スル所ニ古キ石碑ノ存スルノミ

慈眼寺
 宝篋印塔



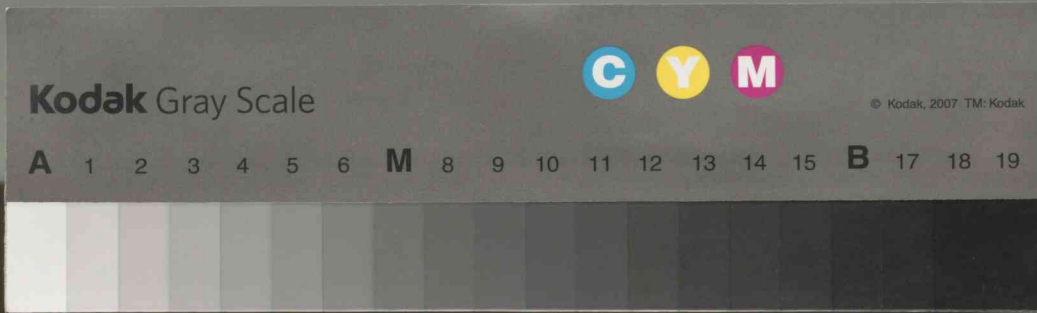


子安地藏塔 下久保
 塔ノ裏向ニ左ノ記事
 地藏菩薩衆生救済ノ爲メ出現殊ニ
 本尊衆見ノ守護信者必ス其功德ニ
 浴ス
 施主鳥居翁武洲ノ産少吐産科田子
 疾ノ門ニ學ビニ拾其與ヲ極ム
 來村以後難産婦ノ來救ヲ乞フテ其
 厄ヲ脱シ救恩實ニ十有餘其功ヲ本
 尊信仰ノ功德トス
 翁齡七旬ニ及ントス有志諸友ノ贊
 助ヲ得茲ニ多年ノ宿望ヲ果シ此碑
 ヲ建ツ來リテ余ニ其因起ヲ乞フ
 因テ其概答ヲ誌シテ後昆ニ傳フト
 去フ
 大正十年十月二十四日
 長昌寺住職
 六角良孝誌之



□大芦山長安寺跡（現在ハ東大田村大字引田手洗ニアリ）
 位置 大字草久字下手
 宗名 曹洞宗
 由緒
 創立ハ詳カラハレドモ長安寺ノ過去帳ニヨレバ最古ノモノ應仁三年ト
 アレバ應仁年間（紀ニ三年）ト推定
 當寺開山勅持賜梵室建絶大和尚ハ勅持賜跡ナルカ故ニ大本山永平寺ニ昇
 住セラレシモノナラン建絶大和尚示寂弘治元年乙卯十月六日トアリ
 四世中興天室長運大和尚ハ當村龍ヶ花大橋氏ノ産トアリテ中興跡ナルバ
 長安寺再興ノ英主ニシテ當村ヨリ現今ノ引田ニ移轉シタル中興ノ祖師ナ
 ラン
 現在引田長安寺ノ開山塔ニ長運大和尚示寂 明曆三年（三三モ）九月トアレバ
 コノ以前ニ引田ニ移リシモノナラン
 現今本村ニ長安寺ノ植徒アルモ消息ナシ

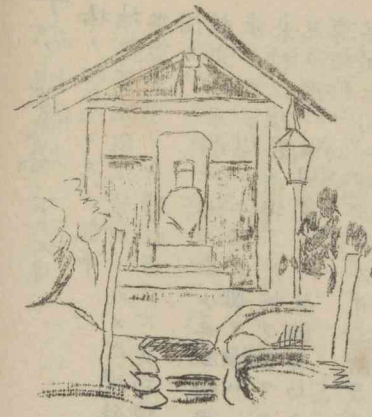




麩粉地藏 上大久保
 諸願成就ノ祈願ニヨリアゲル故ヲ以テ
 麩粉地藏ト傳フ
 石坐像



延命地藏 苗子 上大久保 田中
 地藏講中念願ニヨリ長生保壽ノ守護佛トシテ大正十三年十月延生地蔵ヨリ勤請ス
 石坐像安置

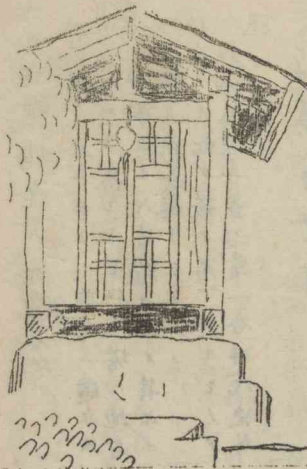
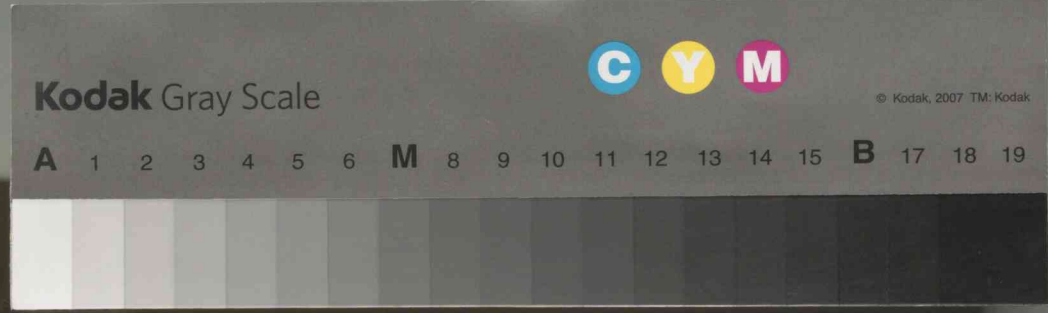


地藏塔 上大久保
 並木兼次郎氏宅地内ニアリ何レヨリカ移轉セシ塔ナラン
 享祿十六年トアリ
 石立像



馬頭觀音 音上大久保 西采坪
 傳説ニヨレバ源氏ノ名馬摺墨ト關係アル觀音ト云フ
 木坐像安置





不動明王 古鹿入
 上代代八氏所藏ノ系譜ニヨレバ
 當家祖先氏部重綱萬治元年(紀三三三)
 四月中旬當坪北方ノ山麓ニ一寺ヲ
 開ク(寺名持明寺)
 本尊不動明王ヲ安置シ永久上沢家
 ノ守護本尊トス
 本尊不動明王ハ祖先宗圓之守本尊
 記多氣山ニ在ル不動明王八宗円建立



子育地藏尊 鹿入勝堂寺跡
 尊像ハ石ノ坐像ニテ明曆三年ト
 銘アリ
 幼児守護ノ尊像ニシテ信徒ノ信
 仰厚ク昭和六年四月御堂ヲ改築
 セリ

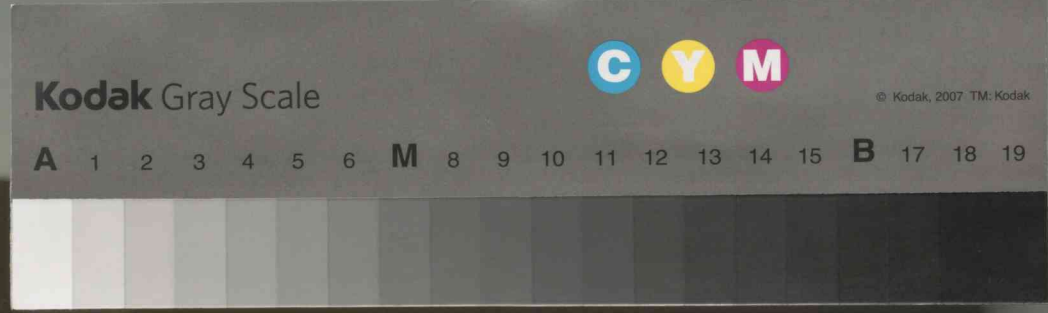
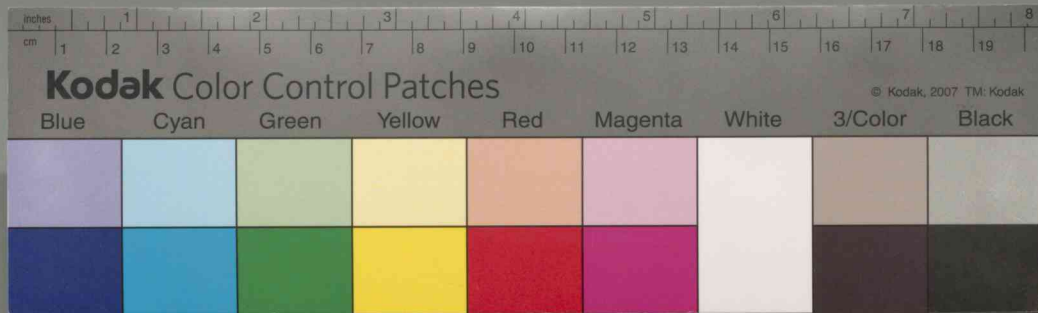


虚空藏堂 下岡
 堂内ニ虚空藏菩薩ノ像ヲ安置ス
 建立年月不詳ナレドモ元禄年間ト
 推定



子安観音堂 塩沢
 嘉永年間ノ創立
 相模国大山町子安観音ヨリ勧請
 セシト傳フ
 昔ハ塩沢観音山ノ頂ニアリシヲ
 現在ノ地ニ移轉セシト云フ





子安観音 小繪
 縁起 柳本堂ニ安置シ奉ル觀世音菩薩
 中勝道上人日光開山ノ折湖畔ニ於
 テ上人手ヲ給テ採リテ立木ニ彫リ
 付ケ一丈六尺ノ小観音ノ像ヲ造
 リ給テ即キ是レ立木觀音ナリ其餘
 木ヲ以テ觀世音像四体ヲ造リ給テ
 一ハ清瀧ノ觀音ニシテ一ハ鹿沼ノ
 千手觀音是レナリ他ノ二体ハ皆ア
 リテ後年本村ニ遷シ天和四年二月
 (寛三三四)本堂ニ安置シ奉レル像ハ
 其ノ一ニシテ子安觀音菩薩是レ
 ナリ(他ノ二体ハ河原小屋百念花觀
 音菩薩ナリト云フ)
 當觀音音ハ大悲大慈ノ菩薩心ヲ重
 レ給ヒテ小兒一切ノ病厄ヲ除キ守

護ノ本尊トシテ本村ハ勿論近郷近
 在ヨリ信仰ノ人衆詣躰ヲ絶カリシ
 カ維新ノ際一時廢佛等ヲ唱フル
 モアリシヲ以テ本堂ニ安置シ奉レ
 ル觀世音菩薩モ其厄ヲ蒙リテ幾ニ
 霜ヲ經テ本堂全ク破壞漏ノ厄ニ
 罹レリ其際借ルベシ御眞体ハ何レ
 ニカ持々去ラレ尋ネントスルニ蹤
 跡ナシ後新ニ現在ノ尊体ヲ安置セ
 ラレシト傳フ
 現今ノ本堂ハ大正十三年大雷善三
 郎氏發起トナリ寄附募集ヲナシ再
 建セラレモナリ

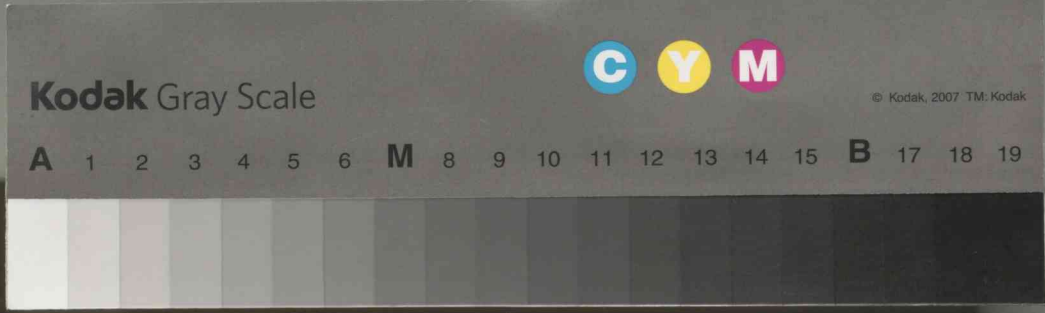


六面地藏塔 鹿ノ入 經塚墓地
 此ノ種ノ塔ハ昔ノ門前等ニ建立ス
 ルヲ見受ク然レトモコノ塔ハ地名
 ヲリ判断スレバ古經ヲ埋メ其上ニ
 立テタル供養塔ナラン
 松手ニモ此ノ塔ト同一ナルモノア
 リ詳細ハ第六章沿革一各時代史參
 照
 延命地藏 八圓堂ノ前
 昔ハ堂アリ火災ニカリテヨリ地藏ノ
 ミナリシヲ北條清三郎氏堂ヲ再建ス
 石像ニ室曆十四年トアリ



藥師堂 八圓
 建立年月不詳ナレドモ古キ石燈
 籠ニ天明六年十月トアリ
 ソレ以前ノ建立ナラン
 御本體ハ最モ古ク本村稀ニ見ル
 佛体ナリ

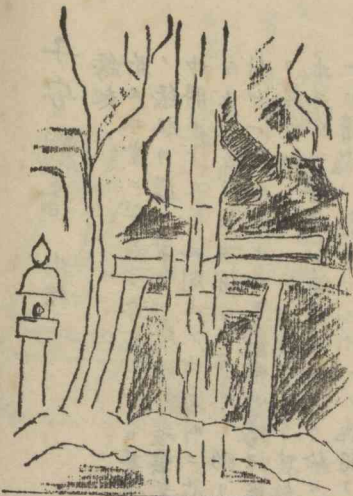




地蔵尊 河原小屋 天寶福郎殿御出巡
 建立年月不詳ナレドモ御本体ハ曰
 光亭山岩ニテ六七百年前ト推定
 人家少ナク 通行人希ナルニ 頭巾腹
 掛等上ケルモ、多ク地蔵ノ 靈驗頭
 著ナルコトヲ知ルヤシ
 昭和七年五月大貫福太郎氏御堂ヲ
 改築ス
 尚ホ詳細ハ第六章沿革 一各時代
 史参照
 觀音菩薩 河原小屋
 道跡ニ面セル小高キ所ニ安置セリ
 詳細ハ
 第六章 沿革 一各時代史
 参照



百合花 觀音(子)觀音 河原小屋
 堂内、記事
 奉建立觀音御堂佛前安全祈收
 享保十二年有施主五人高村勘兵衛
 傳説 大貫傳四郎
 御本体ハ小檜觀音ト同様勝道上人ノ
 作ト傳ヘラレ遠近ノ 祭詣者多カ
 リシガ明治三十五年頃より尾尾銅
 山ノ立木伐採ニテ河原小屋ノ發
 展セル頃何者カニ御眞体ヲ持去
 ラレ現今ハ新ニ木像ヲ造リ御本
 体ヲ安置ス
 今モ遠近ヲ問ハズ 祭詣者アレド
 モ以前ノ如クオラズト云フ

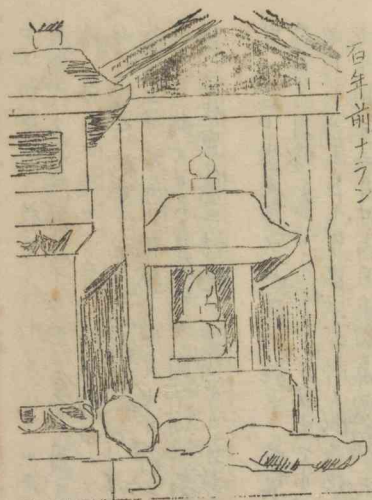
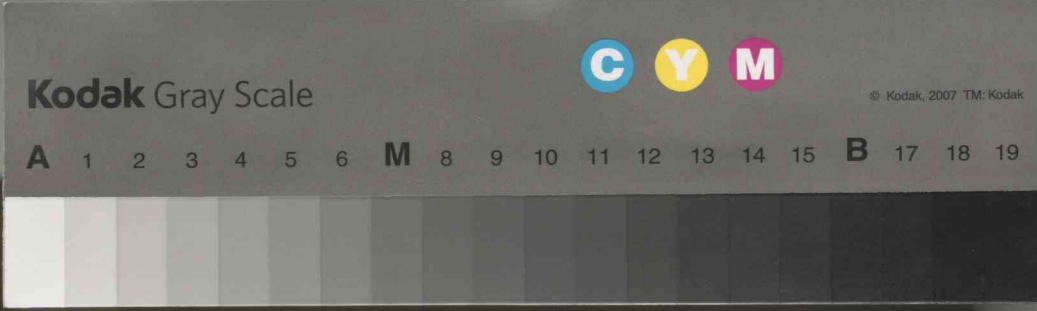


不動明王 小檜
 本體ニ元祿六年一月トアリ
 境内ハ岩屋ニテ數丈高キ岩ノ上ヨ
 リ不動、前ニ瀧落チ夏尚ホ涼シキ
 絶景ナリ、朽、大木ニ本アリ一本ノ
 根ハ不動ノ前ニ現レ蛇体ノ如キ奇
 觀アリ録日ニハ參詣人多シト云フ



藥師堂 河原小屋
 山ヲ登リテ中腹ニアル石堂ナリ
 建立年月不詳ナレドモ河原小屋
 ノ發展セル頃ハ祭詣者多ク堂ヲ
 下リテ平地アリ藥師平ト云ヒ御
 竹籠堂アリト云フ

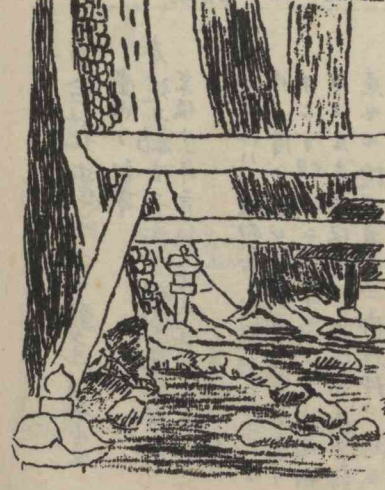




普現院跡半繩
 山法師寺ニテ院主 彦元京都ノ人
 学オアリ明徳初年マテ土地ノ学童
 ニ教フコレ西校設立以前ノ学舎ナリ
 地蔵尊 松手
 本体ハ日光穿山岩ニテ年代不詳ナリ
 百年前ナラン

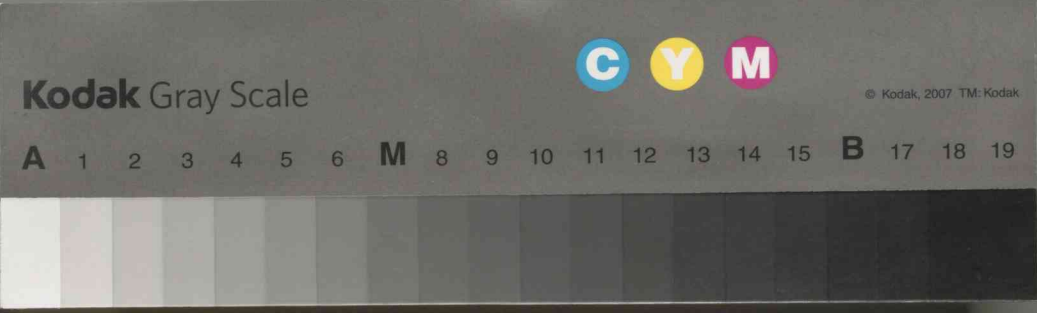
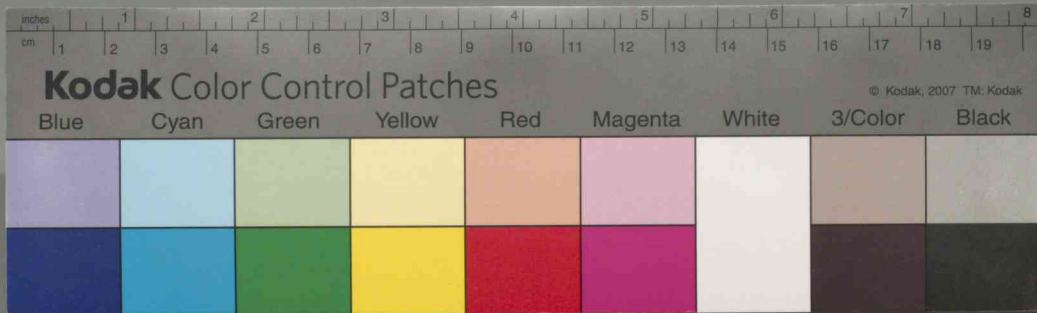
金剛山下ノ向
 縁起
 恭シク吾古峯ヶ原金剛山ノ由來
 ラタツネ奉ルニ畏コクモ当山ハ
 皇國屈指ノ淨利ニシテ最モ神聖
 ナル一大靈域タリ肅ニ惟ルニ當
 國日光ノ開山勝造上人當テ出流
 ノ岩窟ニテ苦修行シ王ロシニ其
 西方ニ當リ時々天ノ音樂ヲ奏シ
 屢々妙香之薫アリ上人フシギニ
 思召シフリトケ見レバ一層タカ
 キ山ノ頂キニ棊ノ雲ゾタナロキ
 ケル乃チヨゲ登ラハトスル念頻
 リナリケルガ神護景雲九年
 御歳三十一ニシテ御志シテ果シ
 王ヒ日々淺谷ニ錫杖ヲヒカシ
 夜々嶺頂ヲ拜撥シツ、庵ヲ結ン
 デ深禪定ノ宿リトコソハナシ王
 ヒケルコ、ニ一ヶ、靈石アリ

大瀧不動明王 河原小屋入
 河原小屋ヨリ山道ヲ行フコト里会
 嶺ノ神靈感應スル所是レ大瀧不動
 ナリ 創立不詳ナレドモ境内ノ樹
 齡ヨリ推定スレバ五百年以前ナラン
 傳説
 御本体ハ其昔日光ノ石屋ニテ調刺
 セシモノニテ出未上リタル眞体ヲ
 宮家御覽アリテ其威嚴ノ尊サニ感
 シ早速開眼式ヲ行ハレト傳フ
 現今ハ新調セラレタル尊像ヲ正
 面ニ安置シ古未ヨリノ尊像ハ後
 ニ隠レラルハ誠ニ遺憾ノコトナリ
 明治二十五年足尾銅山ニテ河原小屋
 立木伐採ノ際
 不動境内ノ古木モ伐採セラレ、運
 命トナリシガ誰アツテ不動明王ノ
 靈地ヲ荒スモノナク進ニテ斧ヲ持



ツチ向フモノナカリキ然ルニ一人
 ノ木切進ンテ明朝古木ヲ伐リ倒ガ
 ントノ意氣込ナリシニ前夜掛勝負
 ニ失敗シ夜逃ノヤハナキニ至リ遂
 ニ伐採ヲ免レタリト云フ実話ナリ





寛文ヲ元録ノ頃ハ徳川五代將軍綱吉ノ治世デ江戸ノ文化ガ漸ク成ニ向ハントシタ時代デアリ而シテ日光神領デアル本村ニハ此ノ

神代	時
一	前
一	承治
二	永貞
二	寛貞
四	元正
三	永徳
四	享保
一	文政
一	天明
一	安政
一	治政
一	正徳
一	大正
七	不詳

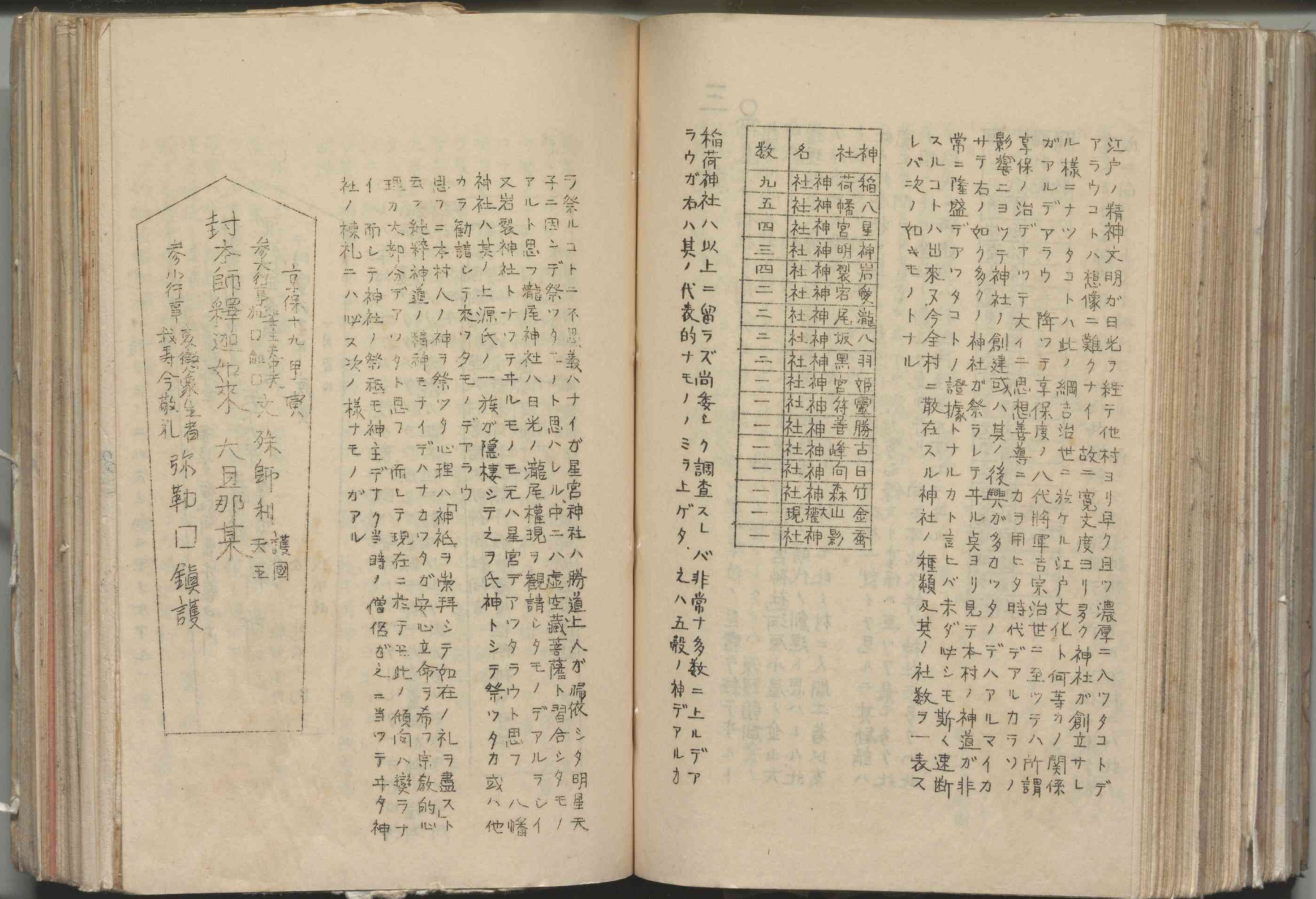
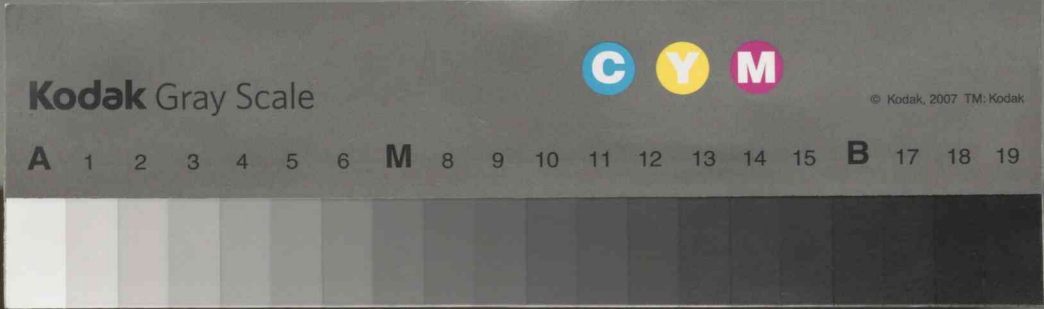
○神道大芦神社ノ創設ハ年代不詳デアリガ千年位ノ星霜ヲ経テナルト
 相傳サレテ神代ノ神ノシカシ各所ニ神ノ宮ノ社ノ河原小屋ノ金山大
 權現吹平八幡神社古峯原靈符神社等ハ此ノ時代ノ創建ト思ハレル此
 ノ外各所ニ散在スルサノヤカナル山ノ神ニモ此ノ村ニ人間土着以來
 ノ古イモノガアルデアラウ
 此ノ外全村ニ亘ツテ調査シタ目星シキ神社ニ就イテ見ルニ其勸請ハ
 寛文年間ヨリ貞享ニカケテ漸ク多ク元禄ヨリ享保ニ亘ツテ最モ多クハ
 ノ間ニ十二箇社ノ創立ヲ見テ平ル尚ホ年代不詳ノ神社モ多クハ此
 ノ時代ニ再建或ハ社殿修復等ガサレテ平ル

三宗教

如ク光ヲ放テリコレイハユルホ有無作ノ蔓陀羅石ナリ上人之ニ因テ殊々信力ヲ深クシ專ラ座禪觀法ニツケリ靈行修志ヲ怠ラズ遂ニ般若ノ大智ヲエテ本有ノ秘藏ヲ開見セリ御三味石ト稱スルハ是ノ如ク因テ以テ最尊最秘靈藏ニ味地ニ登得セルガ故ナリ
 豈ニ夫レ薄カラズヤ其外種々ノ靈異處々ノ因縁多シトイヘトモ就中アリガタキハ天長七年弘法大師ノ御未化ナリ同年三月廿七日多留尊靈場ニテ護摩供一萬座ノ御修行結願アリ弘仁十二年御修行ノ後御真筆ノ經卷ヲノコシ玉ヒ詔リヲ奉レテ勅額ノ道場トシテ勝道上人ノ道場道珍法師ニ命剛野大法ヲ授ク長レコトコロコト山ト名クル一因ナリ
 後醍醐帝ノ勅額ニヨリ大和國葛城金剛山ノ分靈ヲ奉シテ當峯ニ修行シ

三味耶灌頂各峯花供峯中ノ行法一般校合セシ以未年二月ニ隆盛ヲキハメ金剛童子ハ大金剛童子等ノ御齋座モ定マリテカツテ護法ノ善神ノマモリモトヨリ當山ニアルコトナレバ
 大峯葛城ノ大秘法ハ尽ク移シ了レリコレ當峯ノ金剛山ト稱スル真因ナリト傳フ





封本師釋迦如來
 參小行草 哀徳象生者 弥勒 鎮護
 大旦那某
 護國 天玉

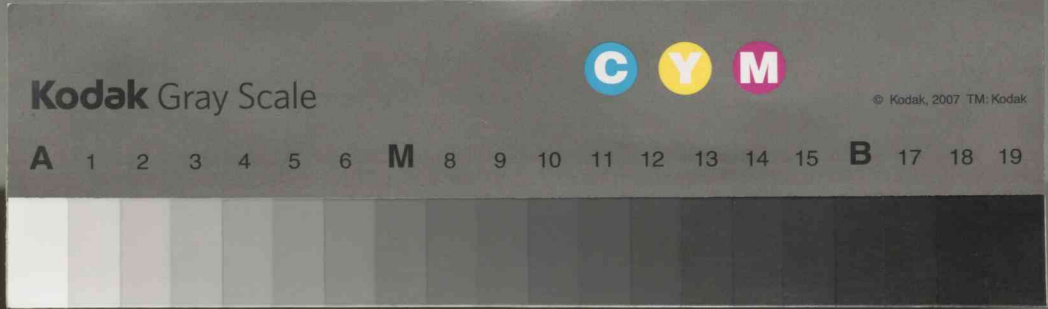
神 社 名 数
 九 社 神 荷 箱
 五 社 神 幡 八
 四 社 神 宮 星
 三 社 神 明 神
 四 社 神 裂 岩
 二 社 神 宿 愛
 二 社 神 尾 瀧
 二 社 神 坂 八
 一 社 神 宮 神
 一 社 神 符 靈
 一 社 神 善 勝
 一 社 神 峰 古
 一 社 神 向 日
 一 社 神 森 竹
 一 社 神 權 山
 一 社 神 影 蚕

箱荷神社ハ以上ニ留ラズ尚委レミク調査スレバ非常ナ多数ニ上ルデア
 ラウガ右ハ其ノ代表的ナモノノミラ調査スレバ非常ナ多数ニ上ルデア

数	名	社神
九	社神荷箱	箱荷神社
五	社神幡八	幡八神社
四	社神宮星	宮星神社
三	社神明神	神明神社
四	社神裂岩	裂岩神社
二	社神宿愛	宿愛神社
二	社神尾瀧	尾瀧神社
二	社神坂八	坂八神社
一	社神宮神	宮神神社
一	社神符靈	符靈神社
一	社神善勝	善勝神社
一	社神峰古	峰古神社
一	社神向日	向日神社
一	社神森竹	森竹神社
一	社神權山	權山神社
一	社神影蚕	影蚕神社

江ノ精神文明が日光ヲ經テ他村ヨリ早ク且ツ濃厚ニ入ツタコトデ
 アラウコトハ想像ニ難クナリ故ニ寛文度ヨリ多ク神社ガ創立サレ
 ル様ニナラタコトハ此ノ網吉治世ニ放ケル江戸文化ト何カノ關係
 ガアルデアラウ降ハ此ノ享保ノ世ニ至ツテハ所謂
 享保ノ治テアツテ大イニ思想善導ニカウ用ヒタリテアルカ
 影響ニヨクテ多クノ神創或ハ其ノ後興カ多ク見テ本ノ神道ガ非
 サテ右ノ如クテ多クノ神創或ハ其ノ後興カ多ク見テ本ノ神道ガ非
 常ニ隆盛デアワタコトノ神創或ハ其ノ後興カ多ク見テ本ノ神道ガ非
 スルコトハ出タ今全ニ證據ナレハカト言ヒ未ダモ速断
 次ノトモノナ
 散在スル神社ノ種類及莫ノ社数ヲ一表ス





シカシテ寛政以後ノモノニハ左ノ如キモノガアル

謹言 羽黒大神
 神無以祈禱爲先止
 天下太平 五穀成就
 買和以正直爲元止
 千時寛政十二年十一月庚寅
 十月吉日
 以下略

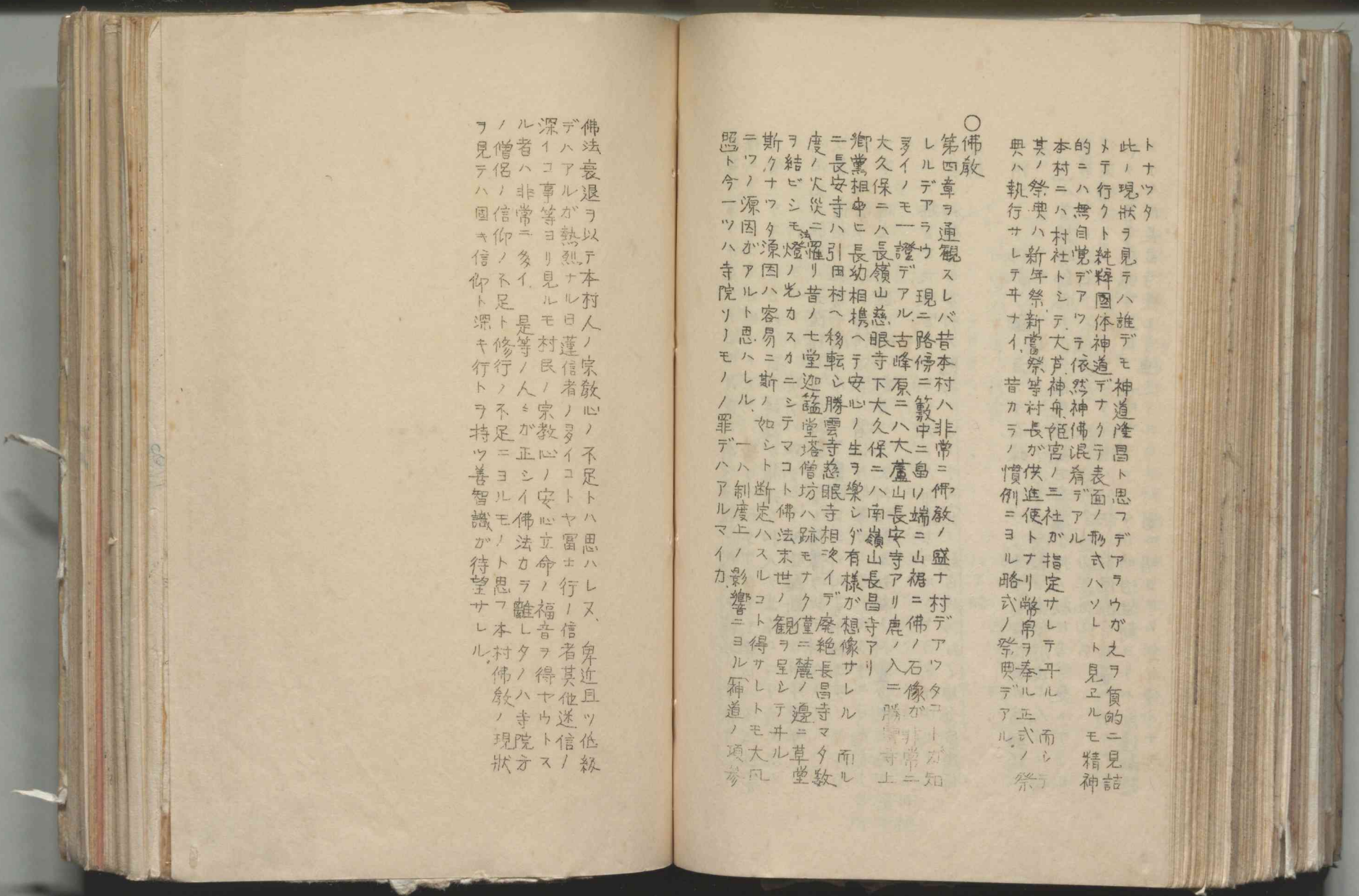
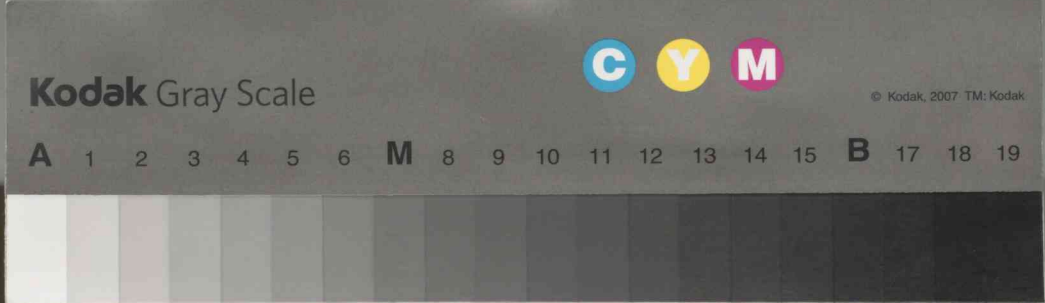
コレハ本村ニ於ケル寺院ガ衰ヘ或ハ廢寺トナワタリシタ一方吉田
 道各派ガ衰ワタタメデアラウ而シテ寛政ニ年ニハ大臺神社神主權淵
 後領名主人ノ項參照ガ正大位ニ敍セラレタ外左記ノ如キモノ各所
 保存サレテキル

下野國者賀郡草久村愛宕大明神兩社祠官
 福岡讀岐正源貞行着風折烏帽子神衣尊守恒例神式可抽
 大平精所者神道式許狀如件
 寛政六年十一月廿六日
 神極領長上從二位
 卜部朝臣百保印

是等ニヨワテ見ルト吉田神道ガ漸次佛教ニ代ワテ神社ノ祭秋ヲナス
 様ニナワタコトガ明カトナル 斯クノ如クサワタモ葬云ハ依然佛葬
 マデニハ行ツテ平ナク此ノ吉田神道ガ根強ク村人ノ生活ニマテ食ヒ込ム
 明治元年朝廷ハ菩薩權現等ノ神號ヲ留メ佛像ヲ以テ神体トスルコト
 ヲ禁ジ僧侶ノ社務ニ服スルモノヲ蓄積セシメル等々餘年來ノ兩部習
 合之流弊ヲ一洗シ神佛混濁ノ習俗ヲ改革サレタ 同シク二年國是ノ
 大本ヲ確立シ皇道復興ノ教旨ヨリ天神地祇及列祖ノ神靈ヲ祭リ給フ
 夕
 以上ノ趣旨ガ大政官令トシテ天下ニ布達セラレ、ヤ日光ヲ中心トシ
 テ其ノ神領タル本村ノ騷動一オナラズ此ノ般古嶺神社ノ項參照庶佛
 迎神

一朝ニシテ佛教ヲ顧ル者ナキ有様トナツタ寺院荒廢佛像ノ盜難損々
 遂ニ目屋シキモノハ皆無トナツタ河原小屋觀世音像筋道上人作ト傳
 ハル小僧根榮師像上大久保馬頭觀世音像小僧觀世音等是レデア
 是等ハ今日現存セバ國定級ノモノモアツタカモ知レヌ
 從來檀徒トシテ從屋シテ平々寺院ハ明治以前佛教分佈圖ニ明カナル
 シテ今尚長昌寺慈眼寺引田ノ長安寺ヲヤツタガ明治維新ヨリハ急遽離檀



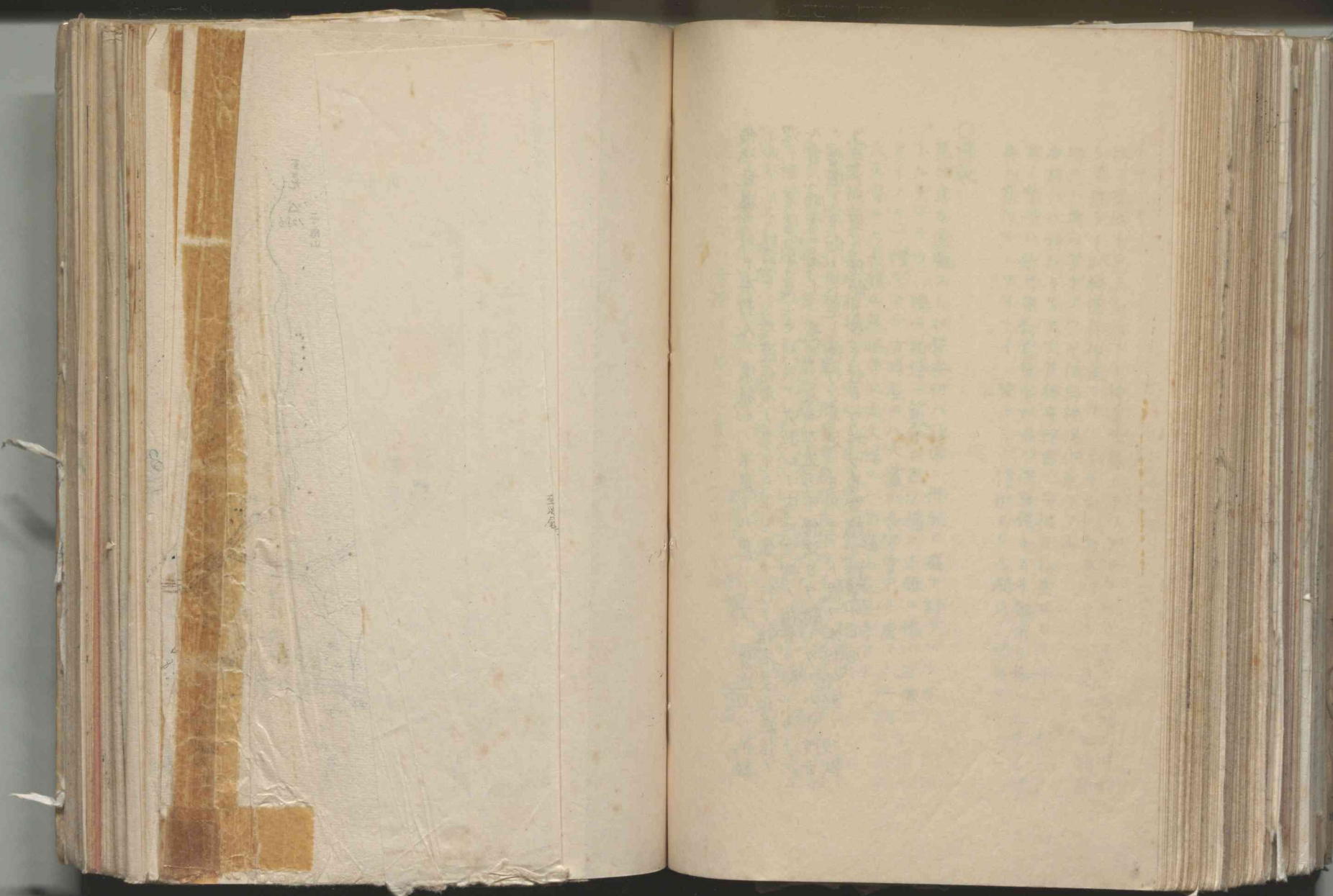
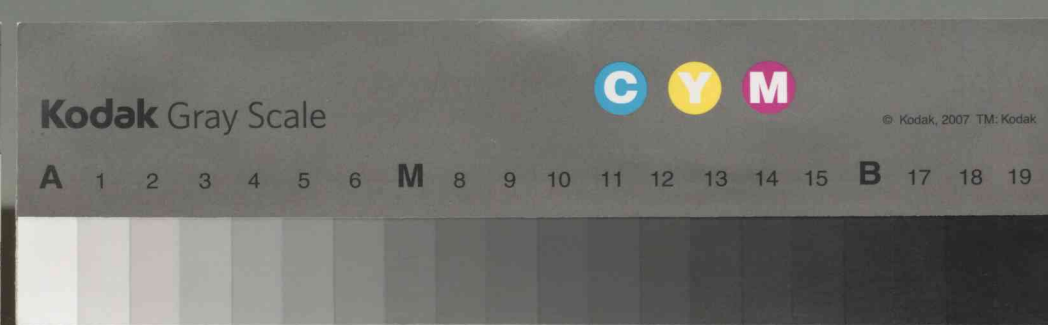
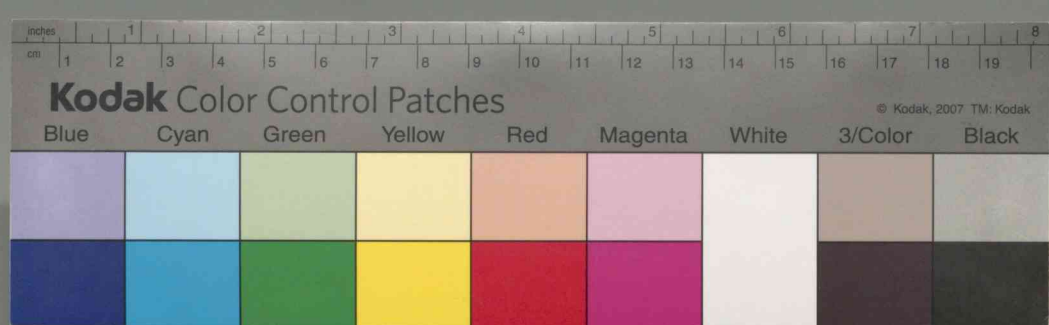


佛法衰退ヲ以テ本村人ノ宗教心ノ不足トハ思ハレヌ、
 深イコ事等ヨリ見ルモ村民ノ宗教心ノ安立命ノ福音ヲ得ヤ内トス
 ル者ハ非常ニ多イ、是等ノ人々ガ正シイ佛法カヲ離シタノハ寺院方
 ノ僧侶ノ信仰ノ不足ト修行人ノ不足ニヨルモノト思フ本村佛教ノ現狀
 ラ見テハ固キ信仰ト深キ修行トヲ持ツ善智識ガ待望サレル

○佛敎
 第四章ヲ通観スレバ昔本村ハ非常ニ佛敎ノ盛ナ村デアワタコトガ知
 レルデアラウ、現ニ路傍ニ藪中ニ島ノ端ニ山裾ノ佛ノ石像ガ非
 多イノモ一證デアル、古原ニ大蘆山長安寺アリ、鹿ノ入ニ勝安寺上
 大久保ニハ長嶺山慈眼寺下大久保ニハ南嶺山長昌寺アリ、而レ
 御堂相中ニハ長幼相携ヘテ安シク生ラ樂シク有様ガ想像サレル、而レ
 度ノ大從ニ置リ昔ノ七堂迎謠堂塔僧坊ハ跡モナク、僅ニ麓ノ邊ニ草堂
 ヲ結ビシモ燈ノ光カスニシテマコト佛法末世ノ觀ヲ呈シテ井ル
 斯クナツタ源因ハ容易ニ斯ノ如シト断定ハスルコト得サレトモ大凡
 ニワノ今一ツハ寺院ノ思ハレノ罪ハハ制度上ノ影響ニヨル、神道ノ項參

トナツタ
 此ノ現狀ヲ見テハ誰デモ神道隆昌ト思フデアラウガ、尤ヲ質的ニ見詰
 メテ行クト純粹國體神道ヲクテ、然レ佛混着ノ形式ハソレト見エルモ、精
 的ニハ無自覚デアラウテ、大芦神宮ノ長が供進便ニヨリ幣帛ヲ奉ル、而レ
 本村ニハ新社トシテ、大芦神宮ノ長が供進便ニヨリ幣帛ヲ奉ル、而レ
 其ノ祭典ハ新年祭、新嘗祭等村長が供進便ニヨリ幣帛ヲ奉ル、而レ
 典ハ執行サレテ、昔カラノ慣例ニヨリ幣帛ヲ奉ル、而レ

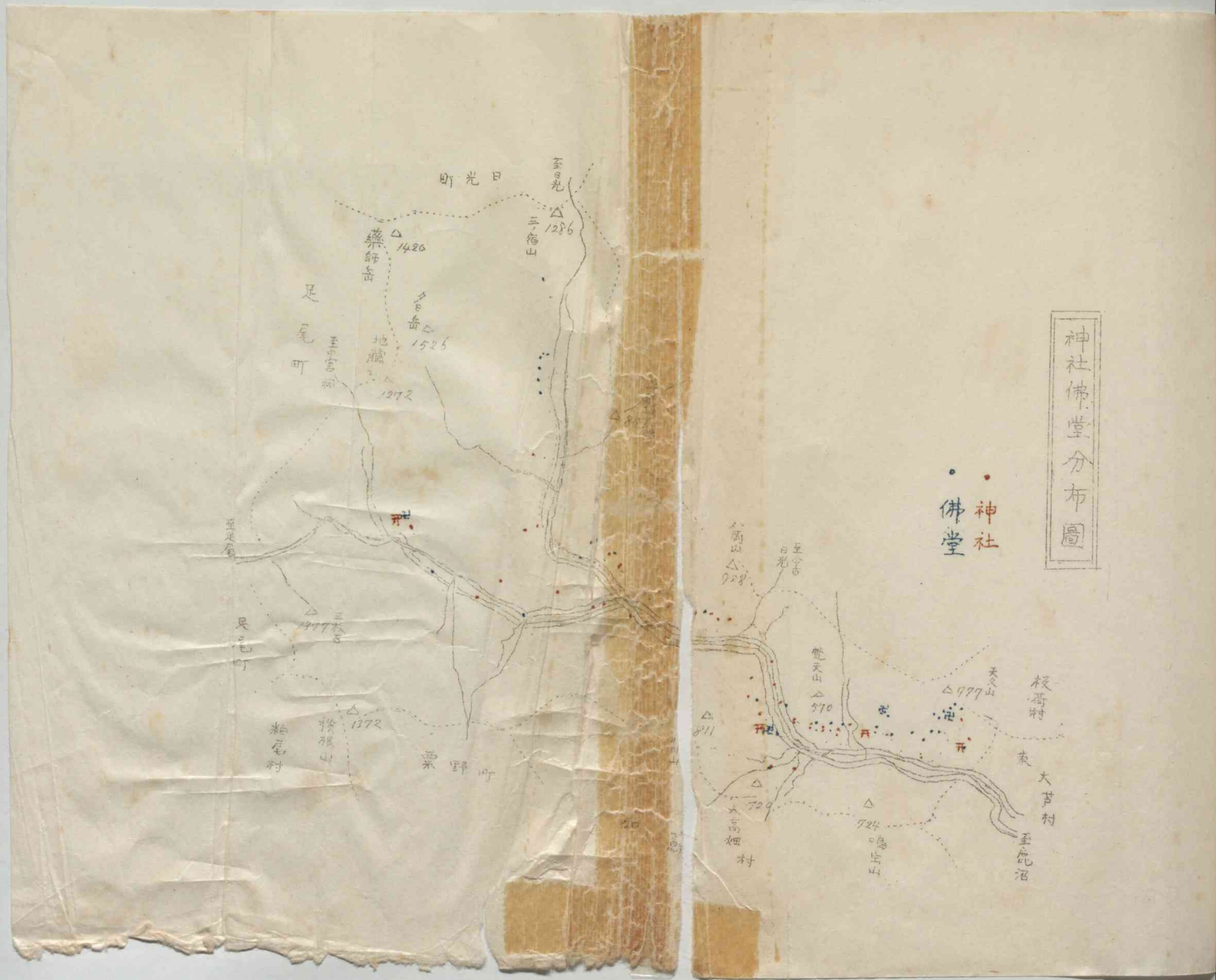
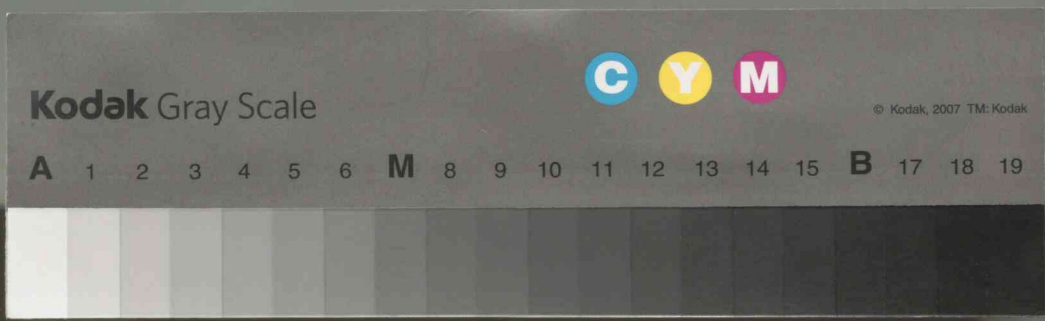




492 西大芦地区 西大芦小学校所蔵資料

13

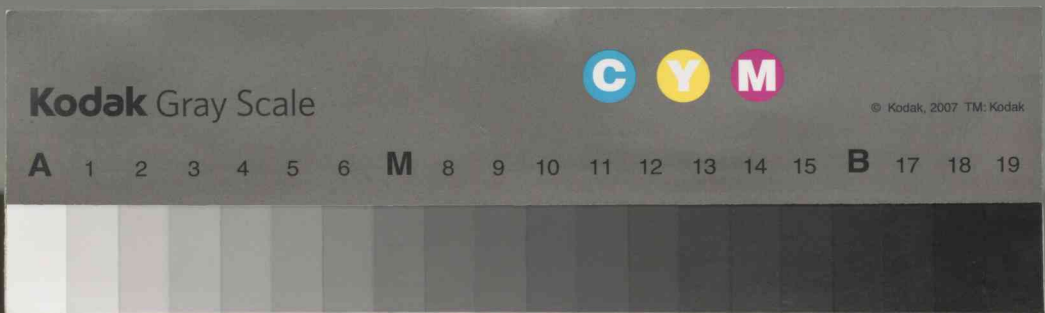
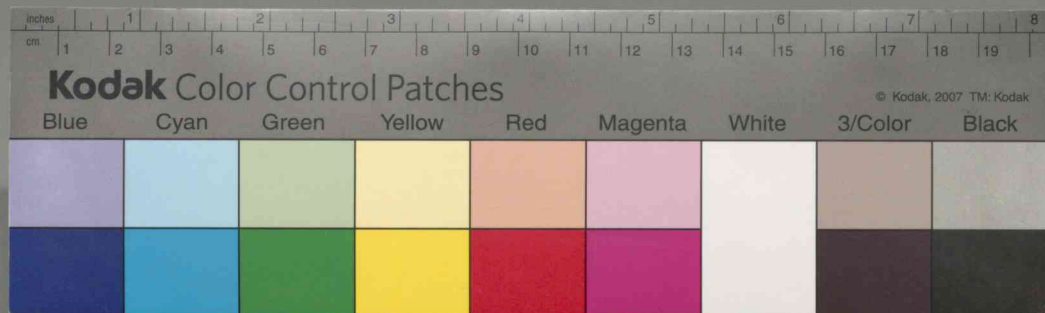




492 西大芦地区 西大芦小学校所蔵資料

13





492 西大芦地区 西大芦小学校所蔵資料

13



